

重要文化財 旧西尾家住宅 茶室 積翠庵Ⅱペーパークラフト

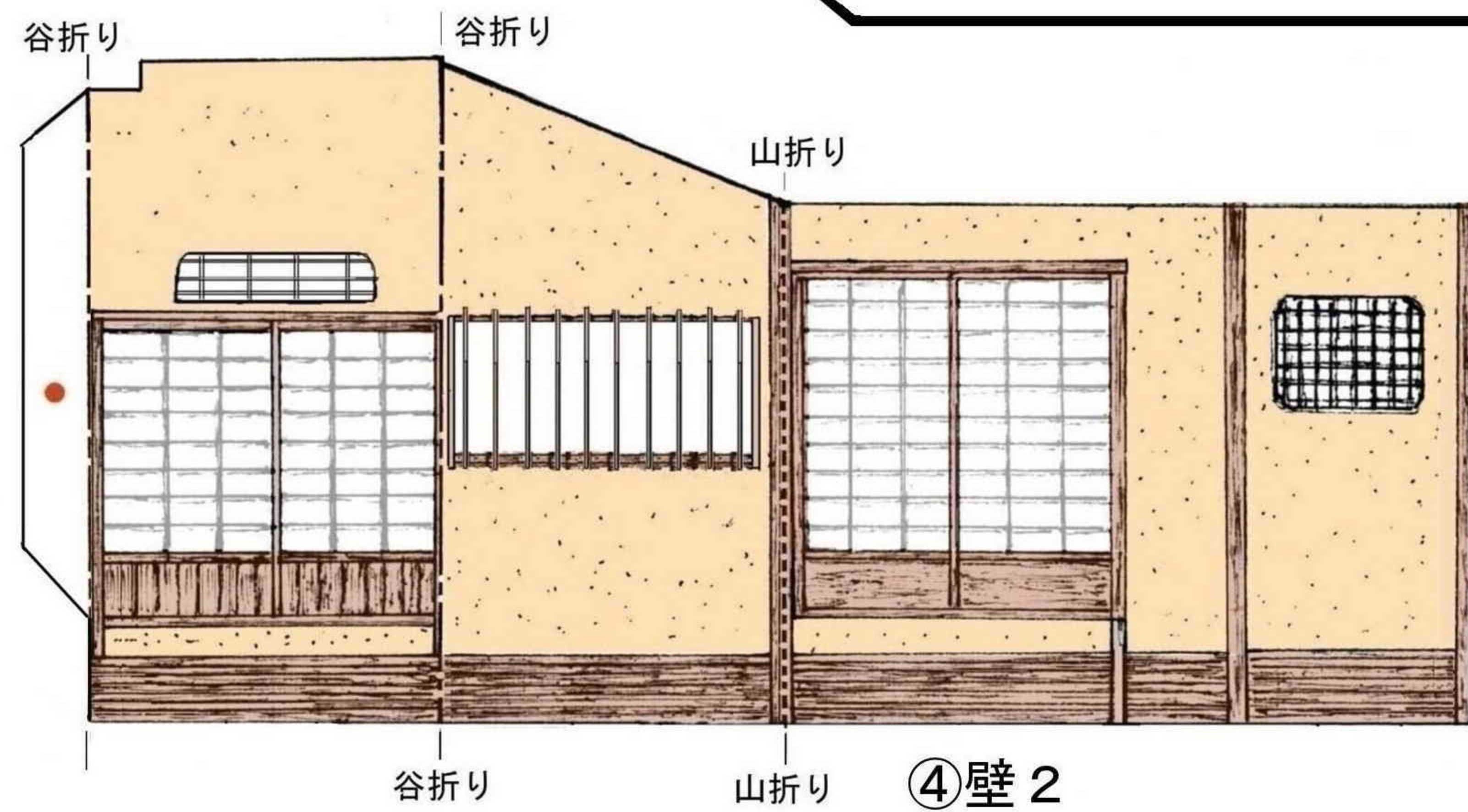
吹田市立博物館 NO. 32 2020 型紙制作：西本安秀



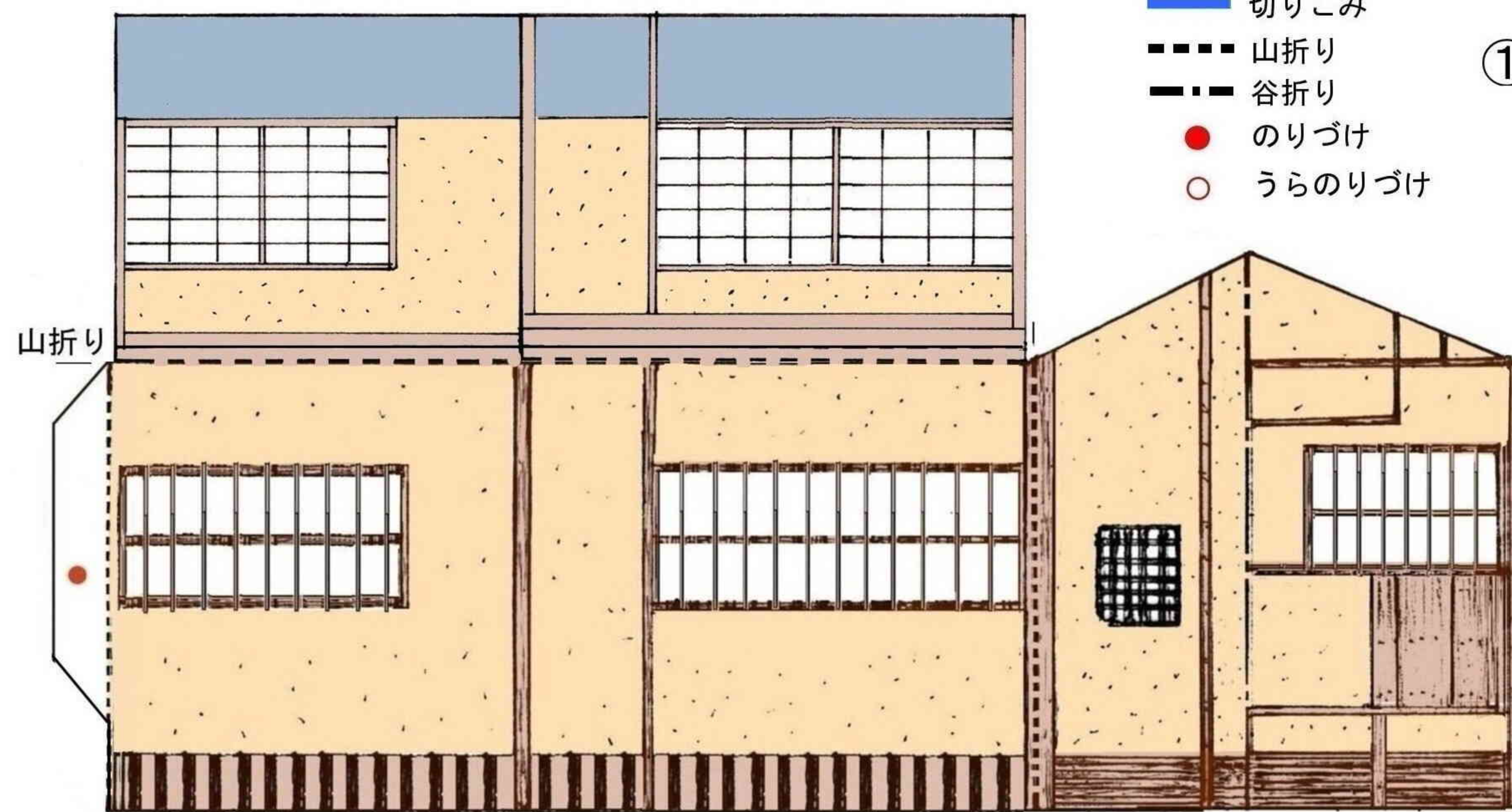
〈完成写真〉



〈内部写真〉



④壁2



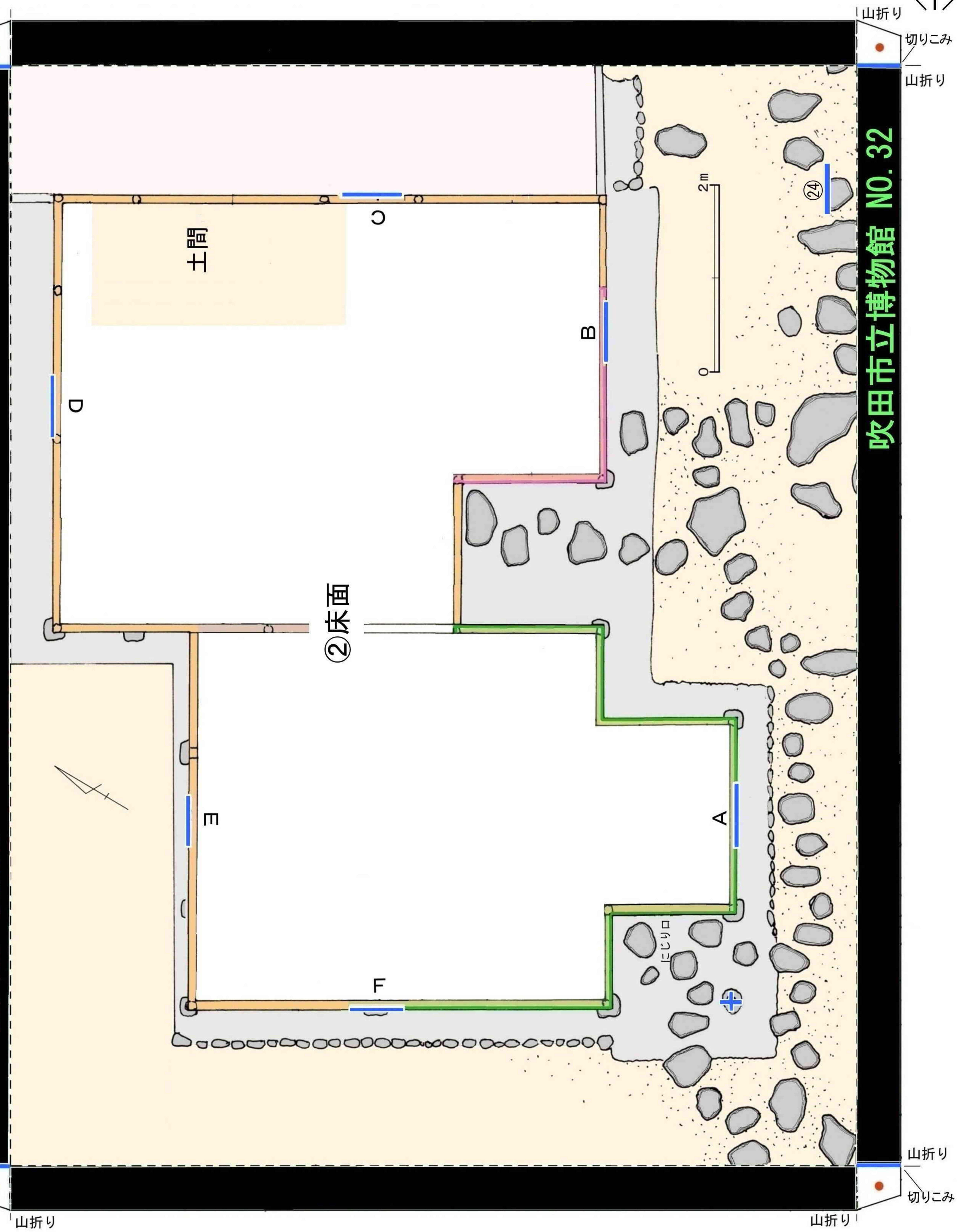
⑤壁3

〈凡例〉

- 切りこみ
- - - 山折り
- - - 谷折り
- のりづけ
- うらのりづけ

①土台

型紙制作：西本安秀 2020



吹田市立博物館 NO. 32

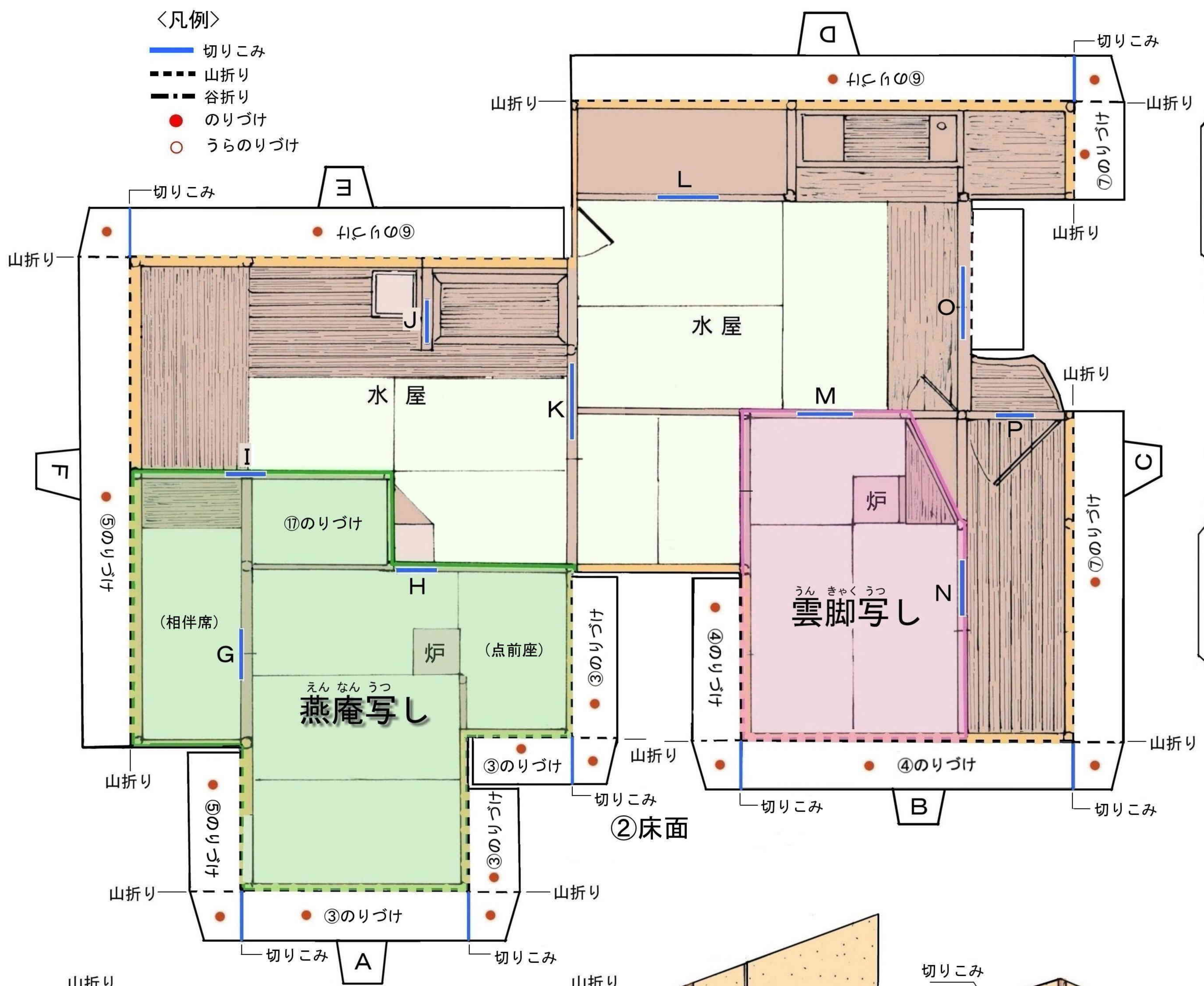
〈1〉

切りこみ  
山折り

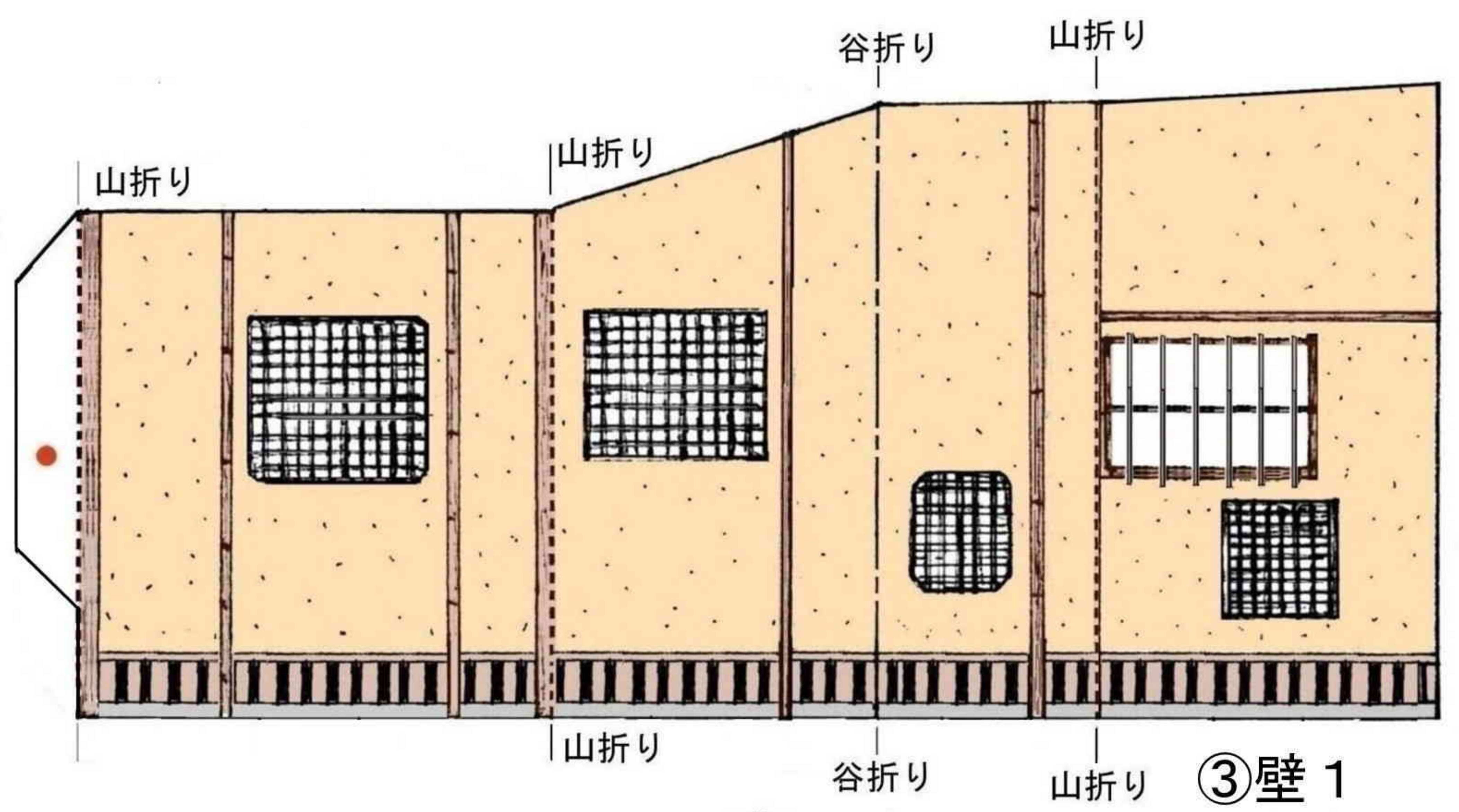
山折り  
切りこみ

<凡例>

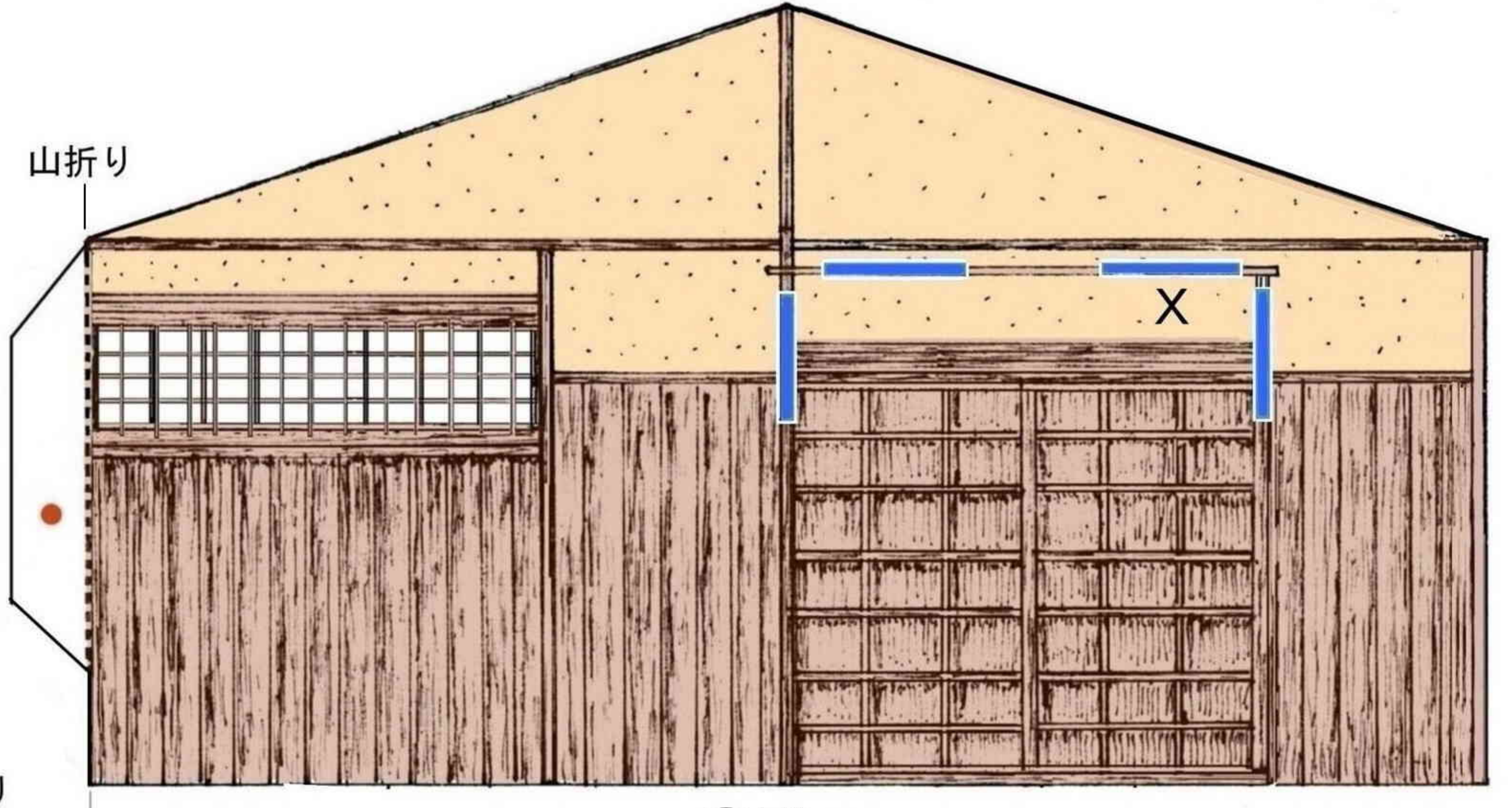
- 切りこみ
- - - 山折り
- - - 谷折り
- のりづけ
- うらのりづけ



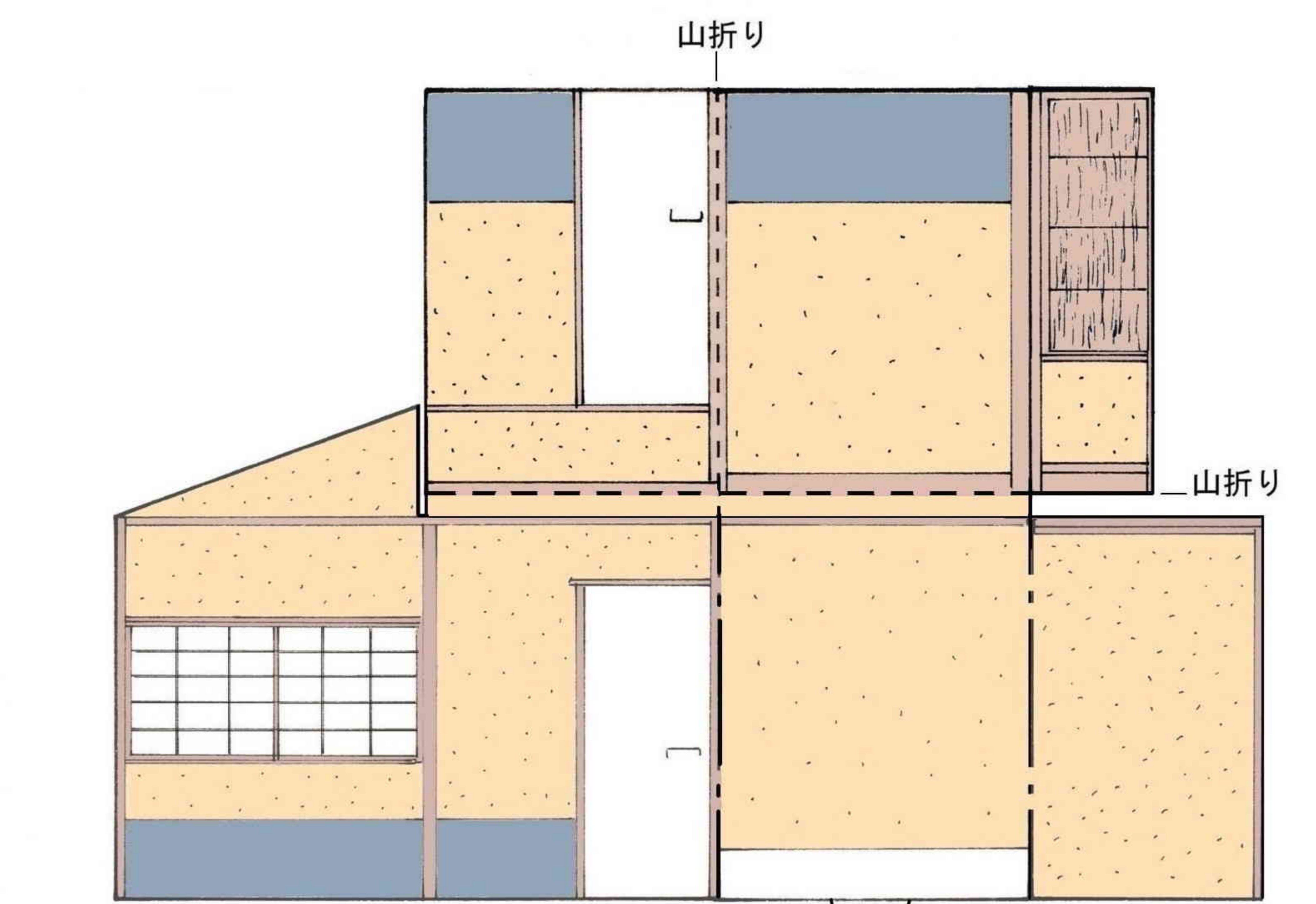
②床面



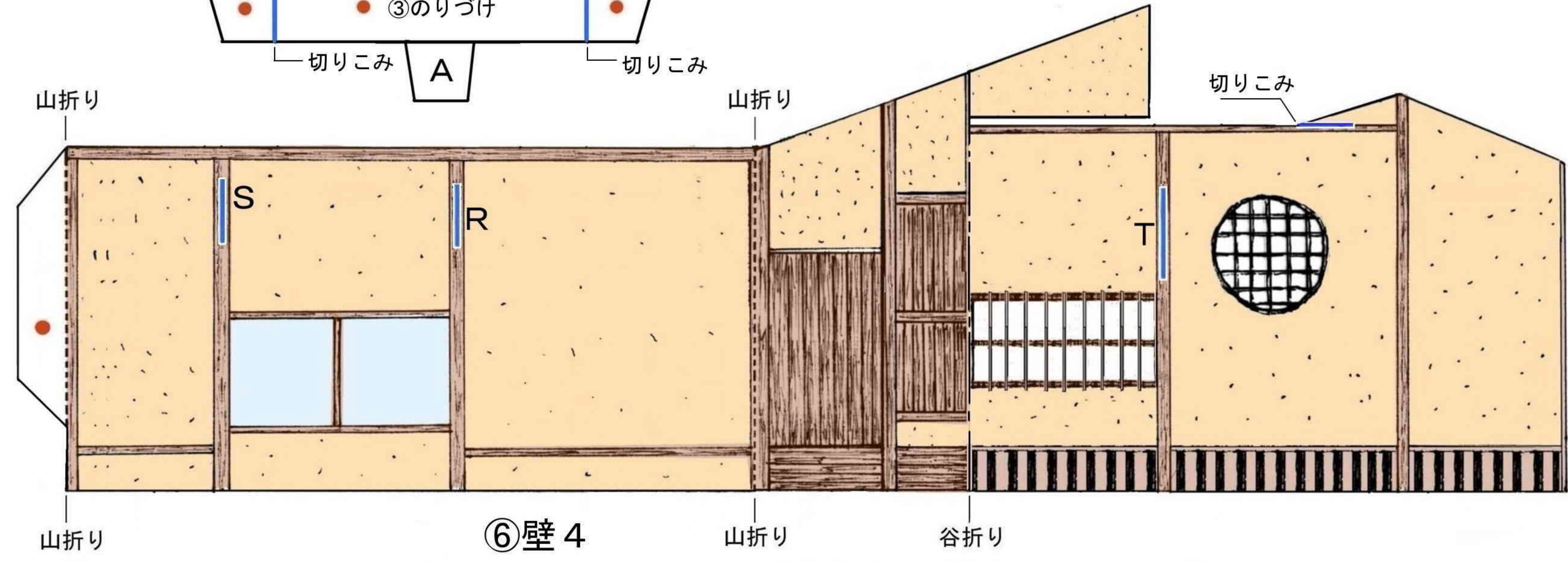
③壁1



⑦壁5

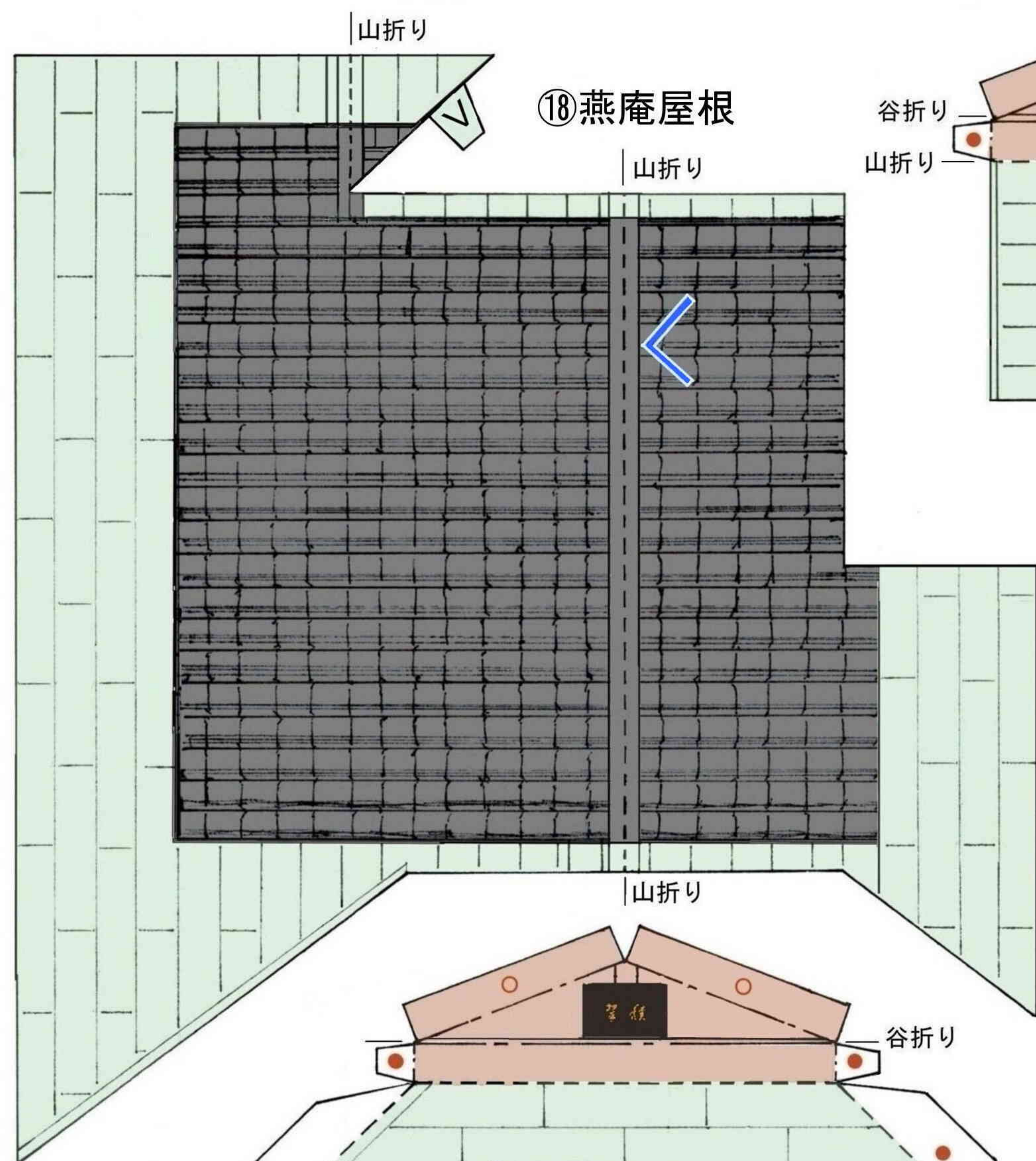


⑮雲脚3

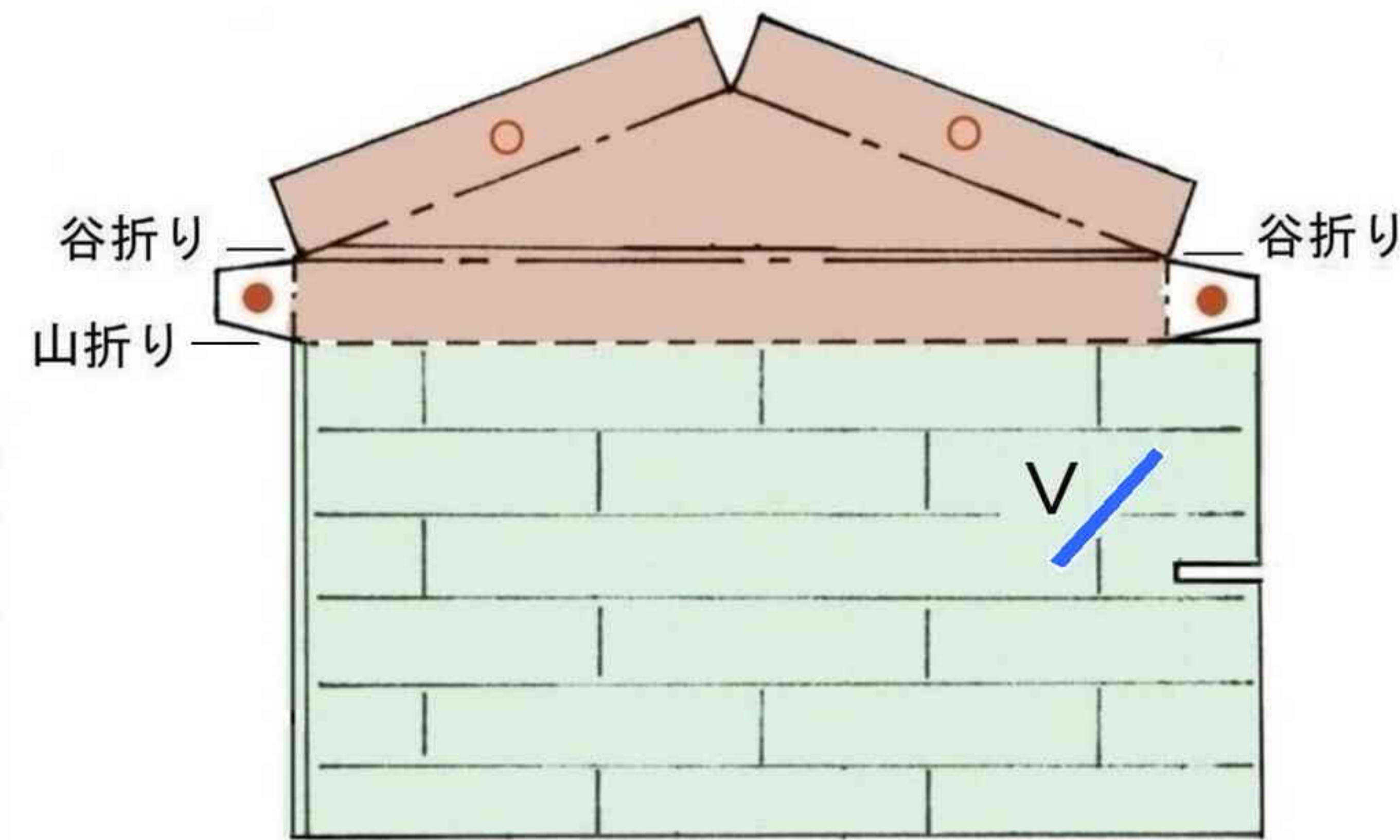


⑥壁4

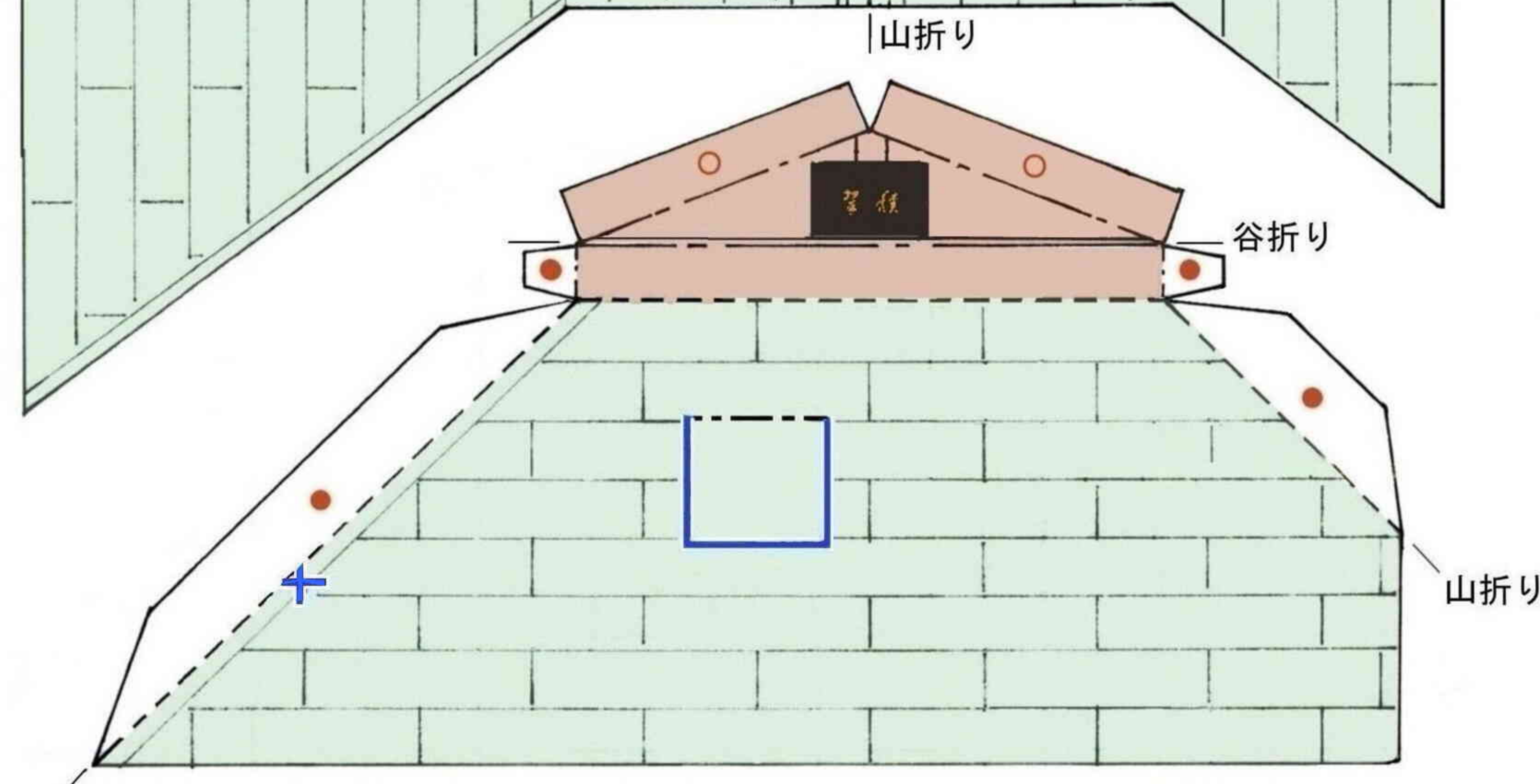




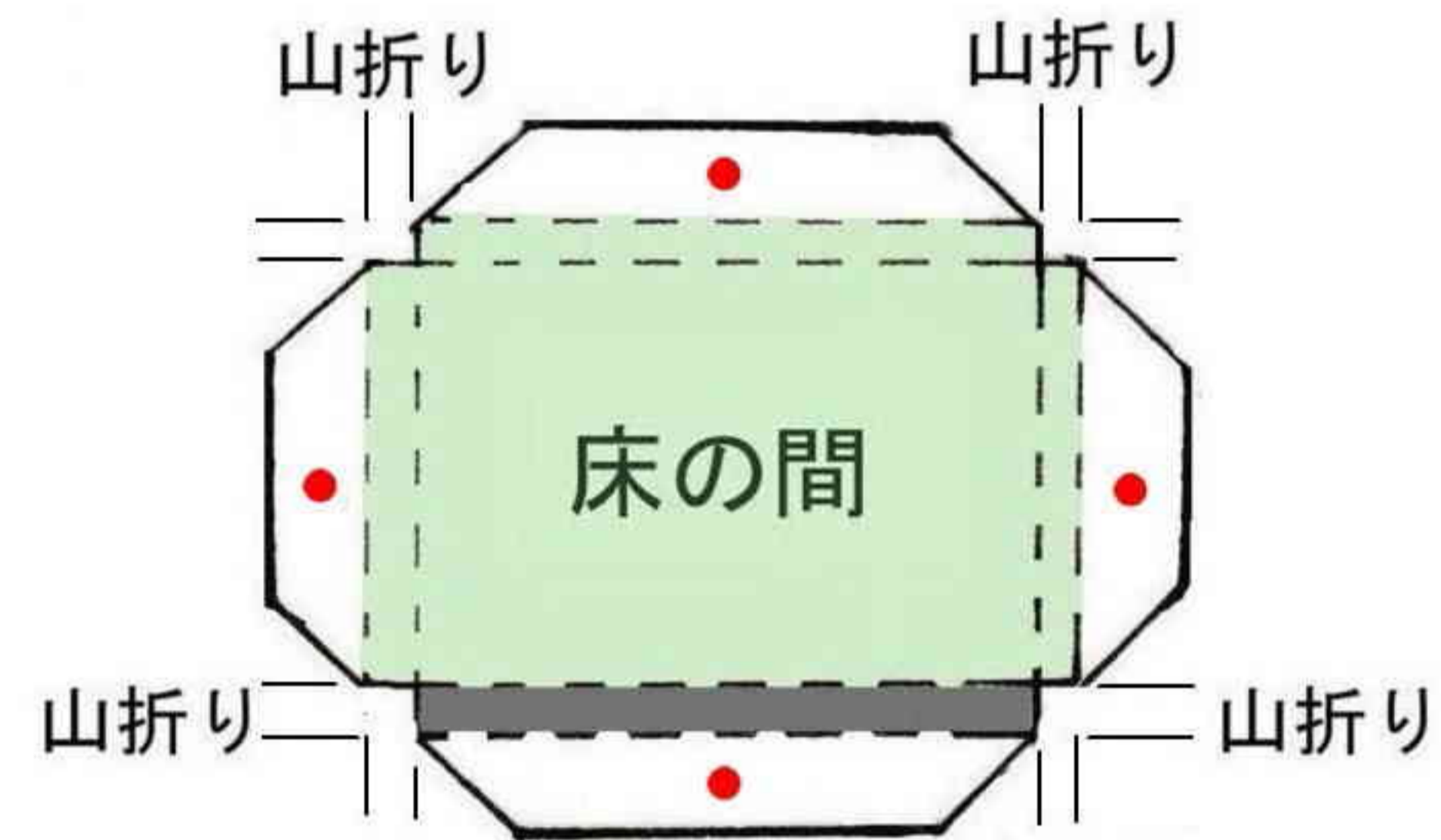
⑱燕庵屋根



⑳北側ひさし

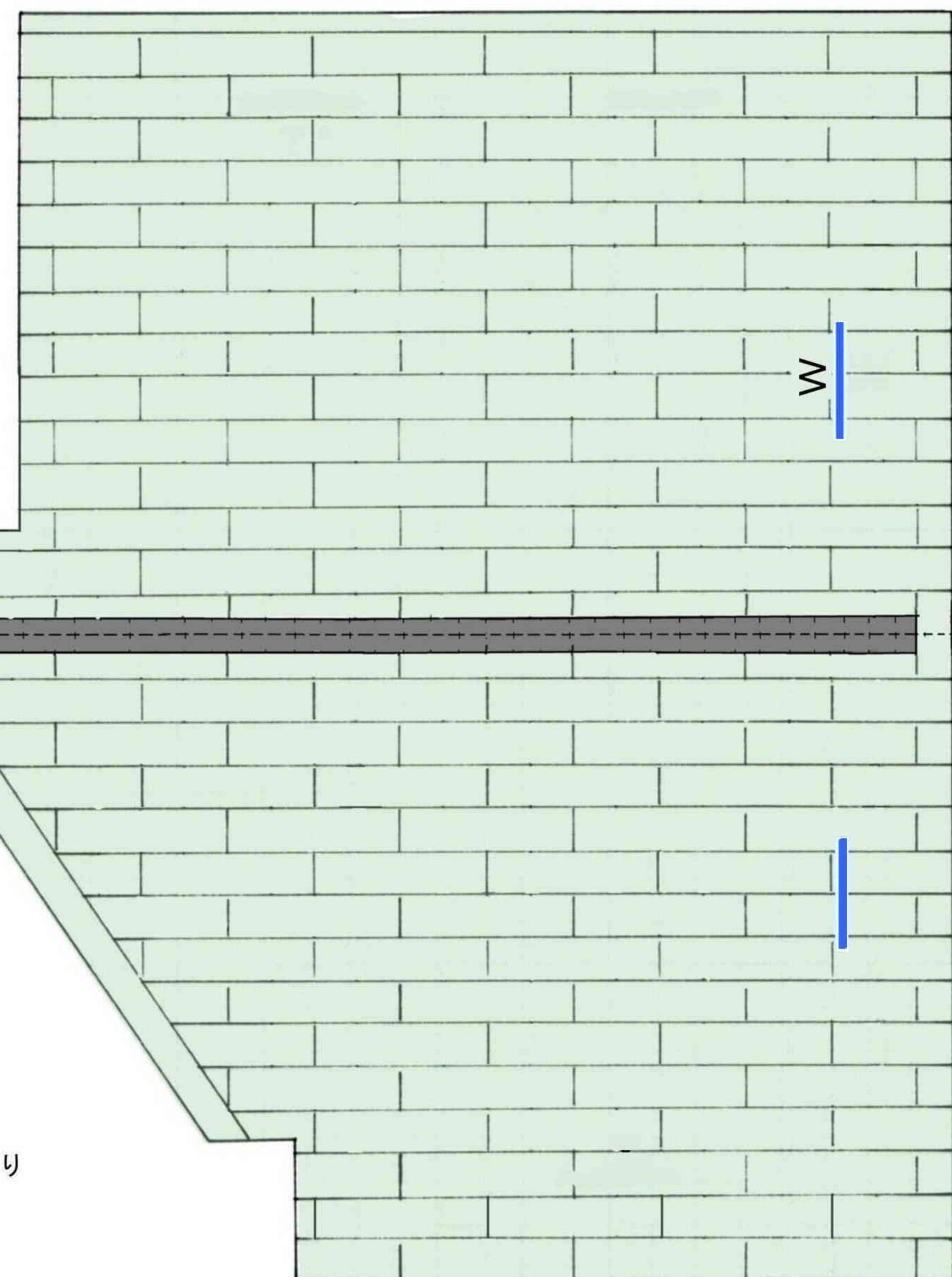


⑲南側ひさし

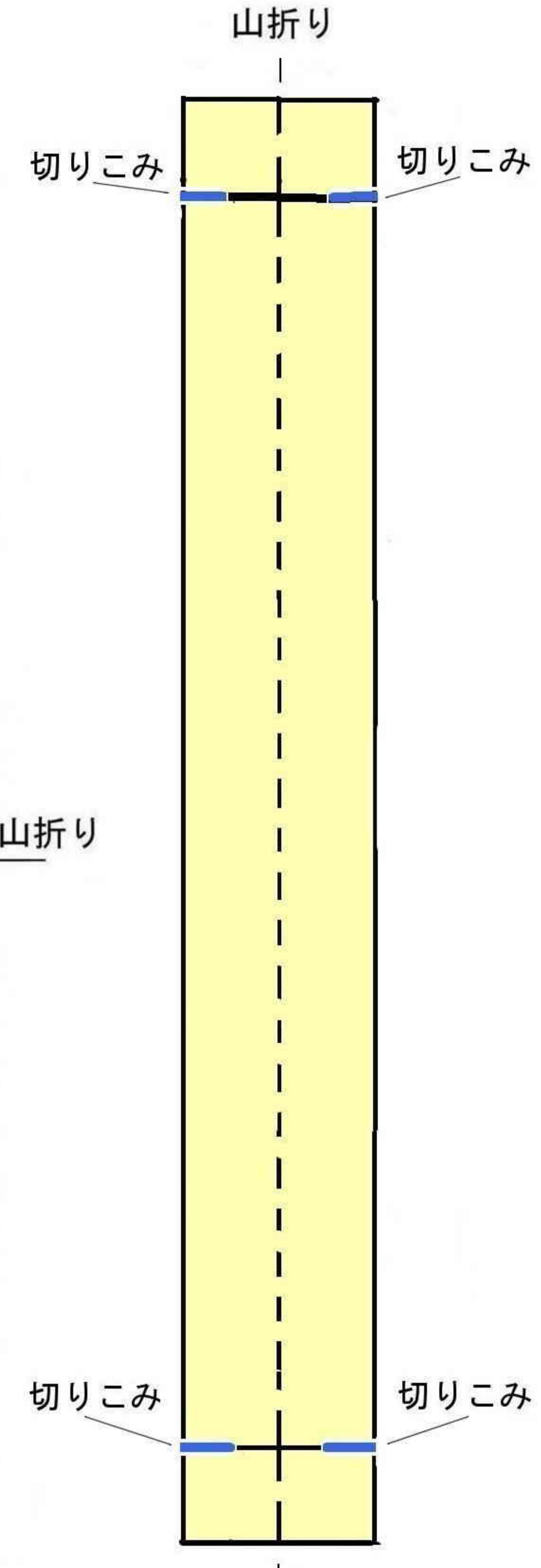


⑰床の間

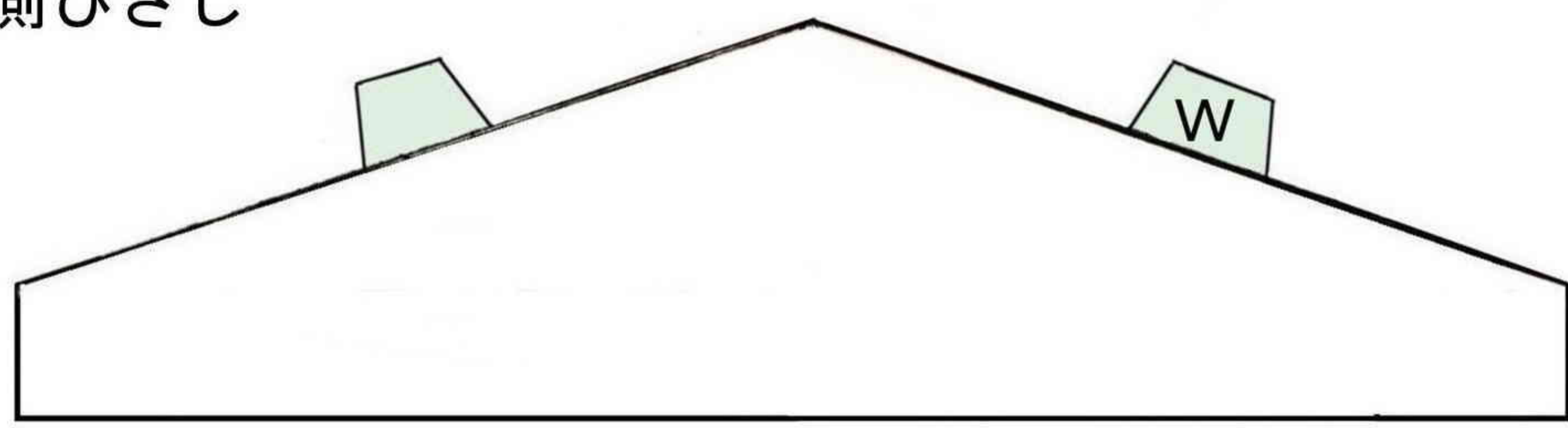
- <凡例>
- 切りこみ
  - - - 山折り
  - · - 谷折り
  - のりづけ
  - うらのりづけ



㉑雲脚屋根



㉒補強材



㉓屋根補強材



㉔題せん

重要文化財 旧西尾家住宅茶室 積翠庵

明治26年(1893年)建築の茶室積翠庵は屋敷地の北端西寄りに位置し、京都茶道藪内家に伝わる茶室燕庵(重要文化財)及び雲脚の写しを水屋を中央に介してつなげられ、一棟の建物としたものです。その内の燕庵(重要文化財)は三畳台目の茶席で三畳の客座を中心に東に点前座、西に一畳余りの相伴席、北に床の間を配置しています。燕庵の写しは藪内家の茶道相伝者のみ許されている貴重なものです。

㉕積翠庵解説

切りこみ

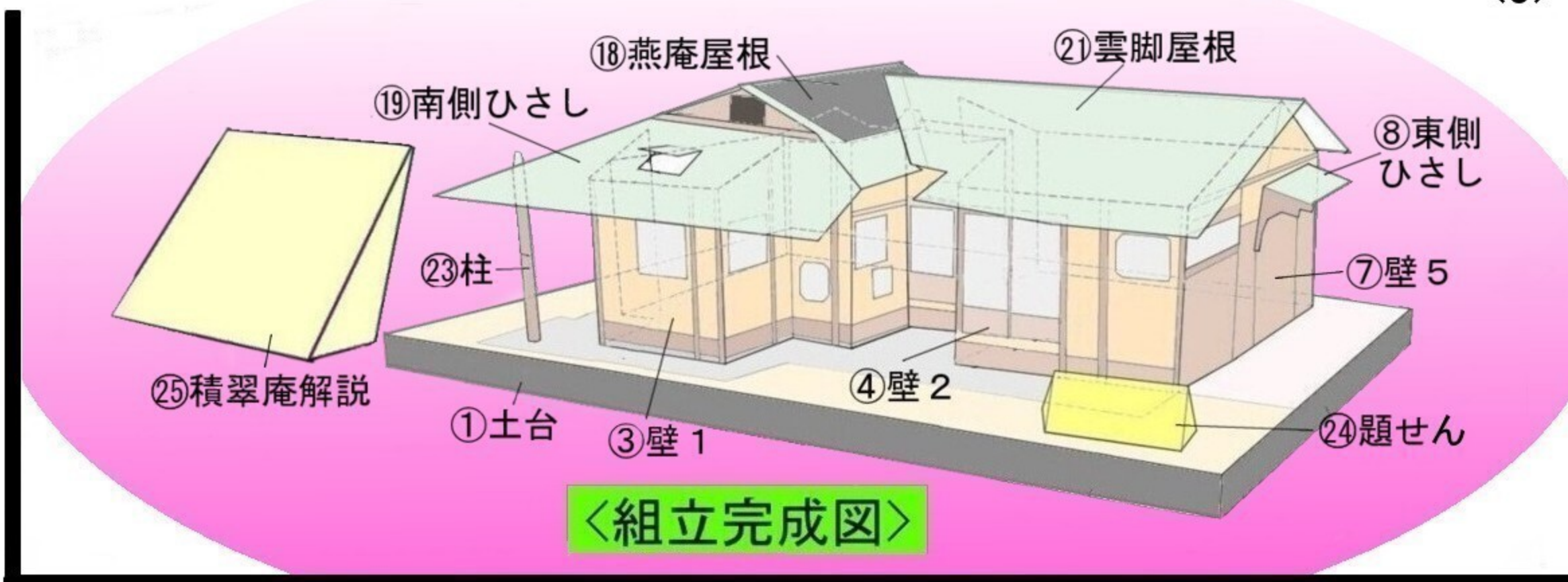
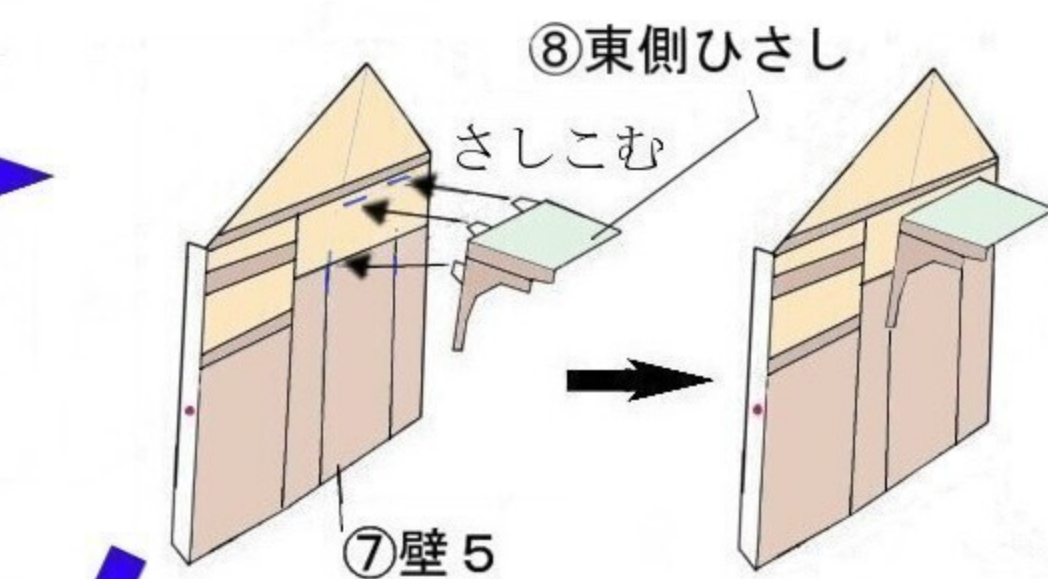
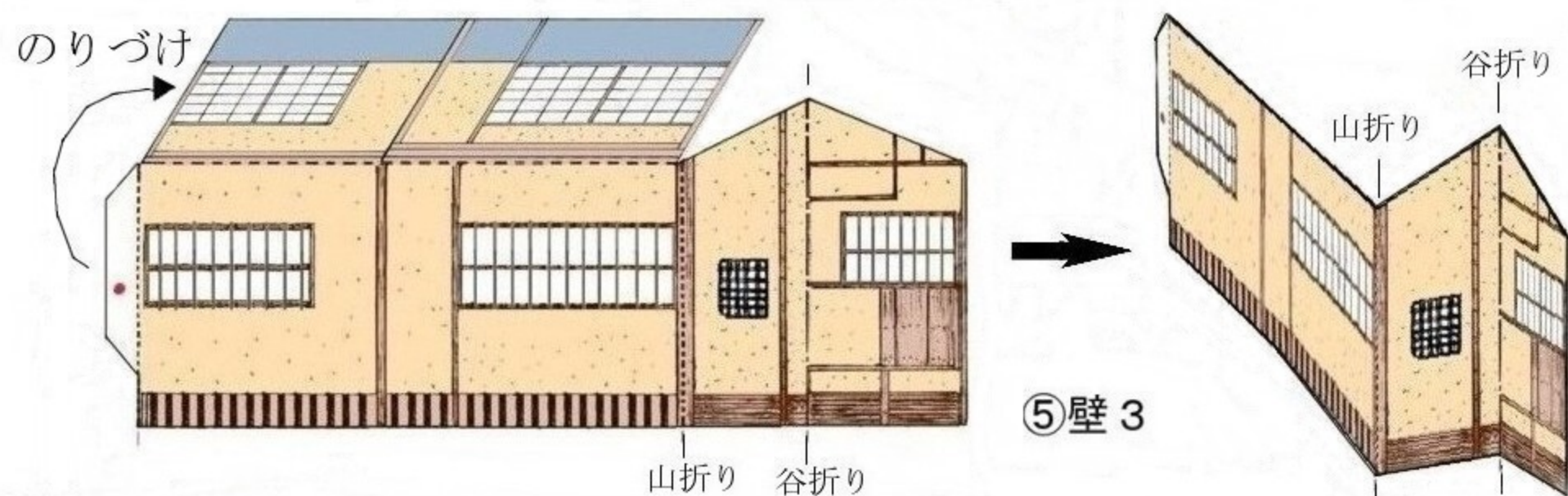
切りこみ

1 部品を作る

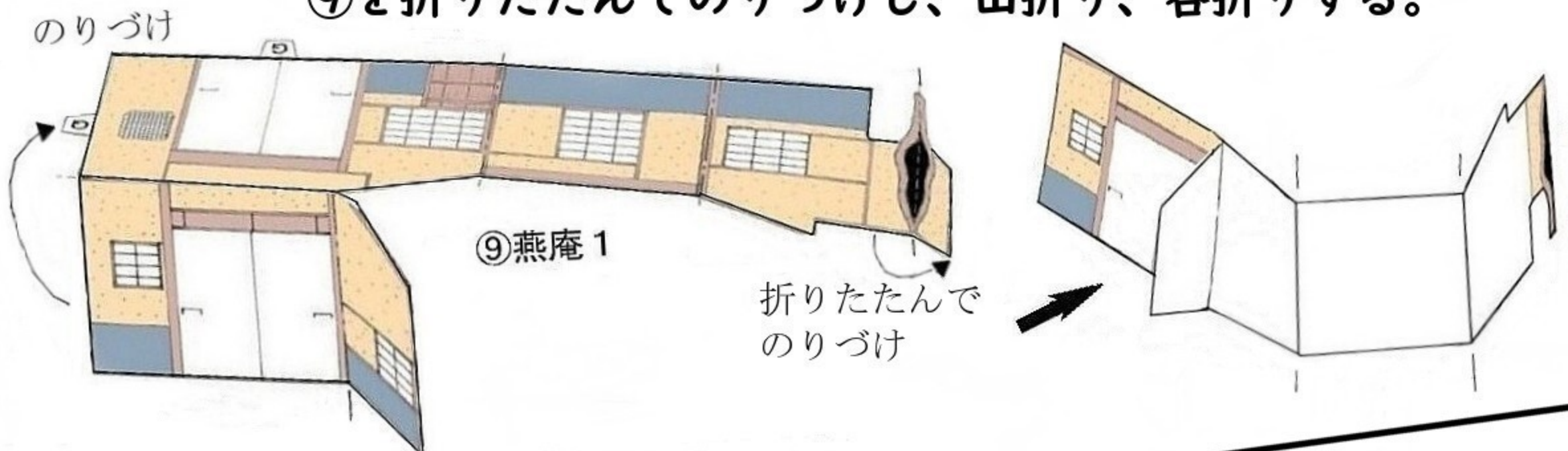
\*各部品に切り込みを入れてから切り抜く。

⑦に⑧をさしこみ、先を曲げる。

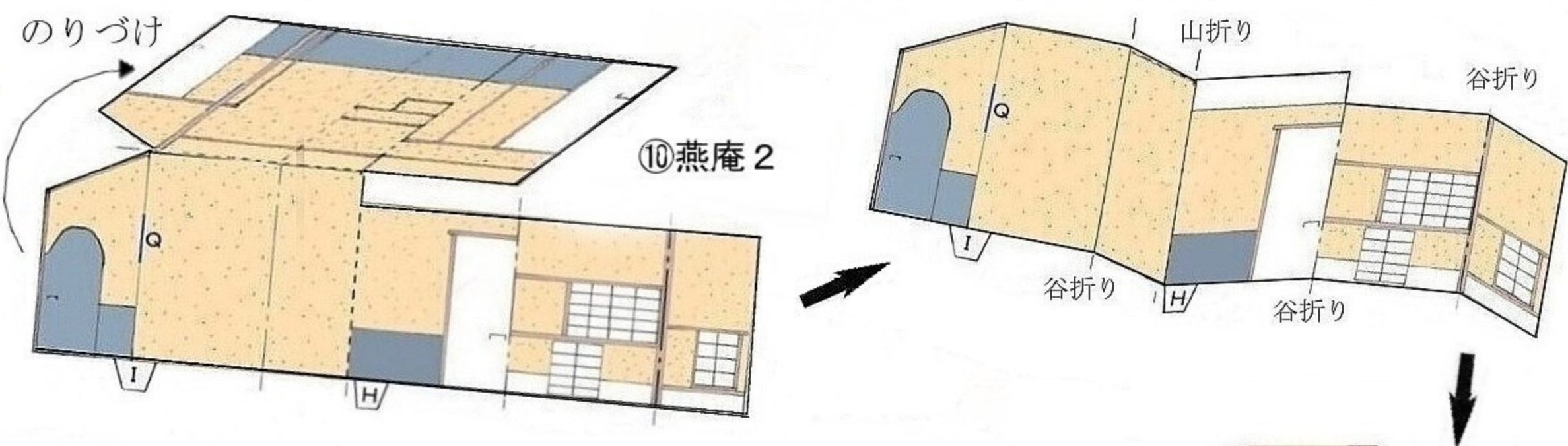
⑤を折りたたんでのりづけし、山折り、谷折りする。



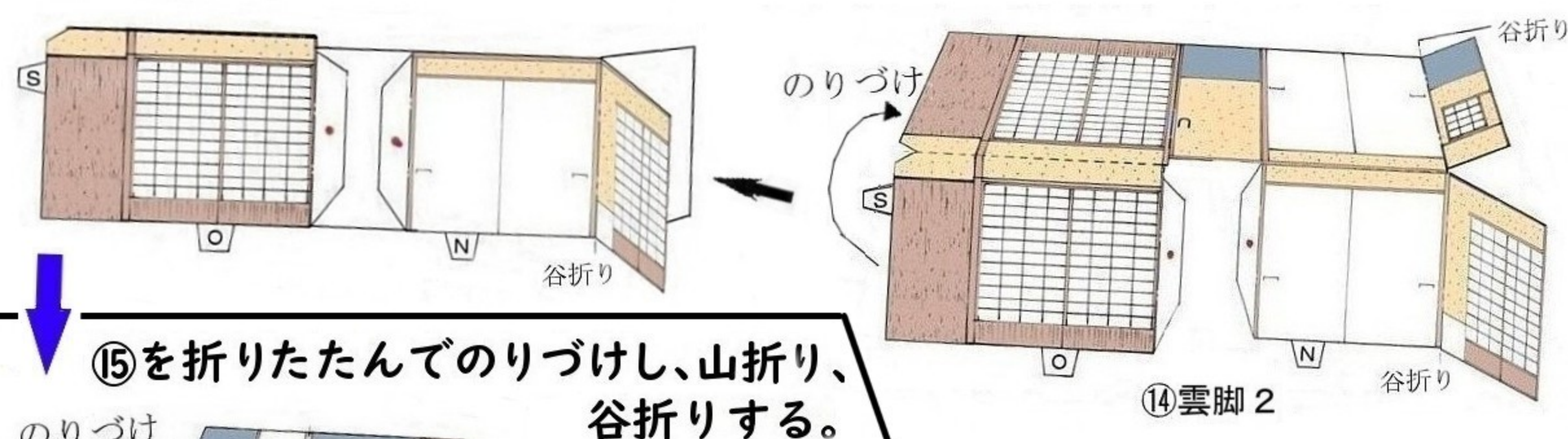
⑨を折りたたんでのりづけし、山折り、谷折りする。



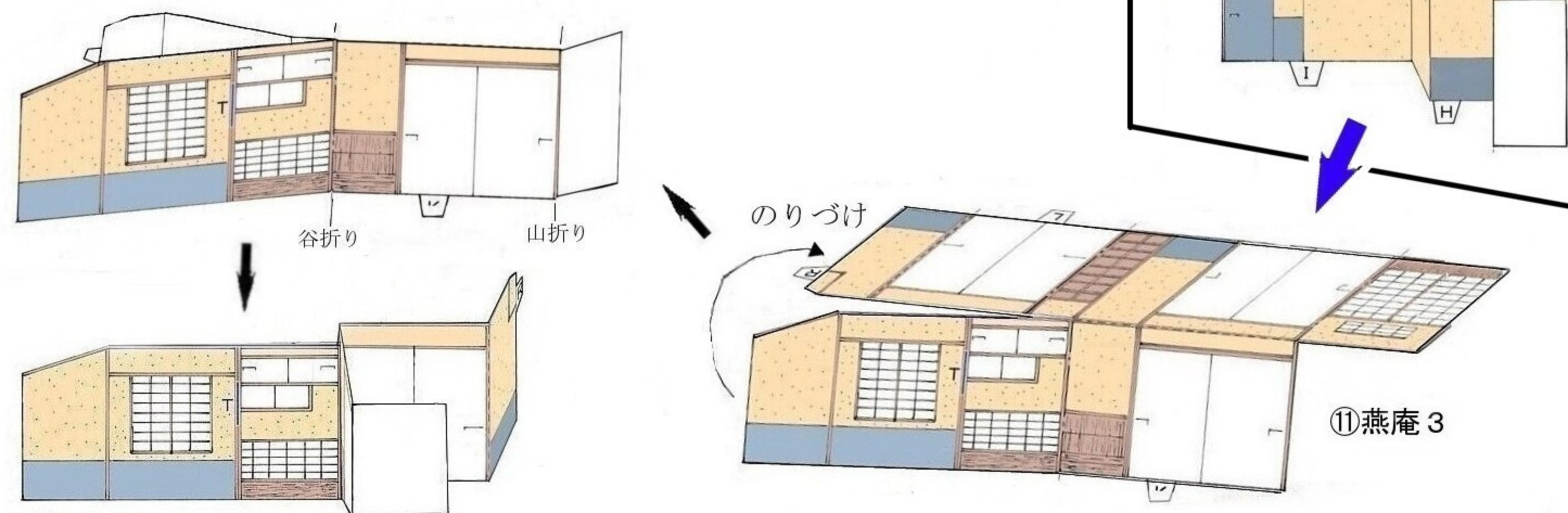
⑩を折りたたんでのりづけし、山折り、谷折りする。



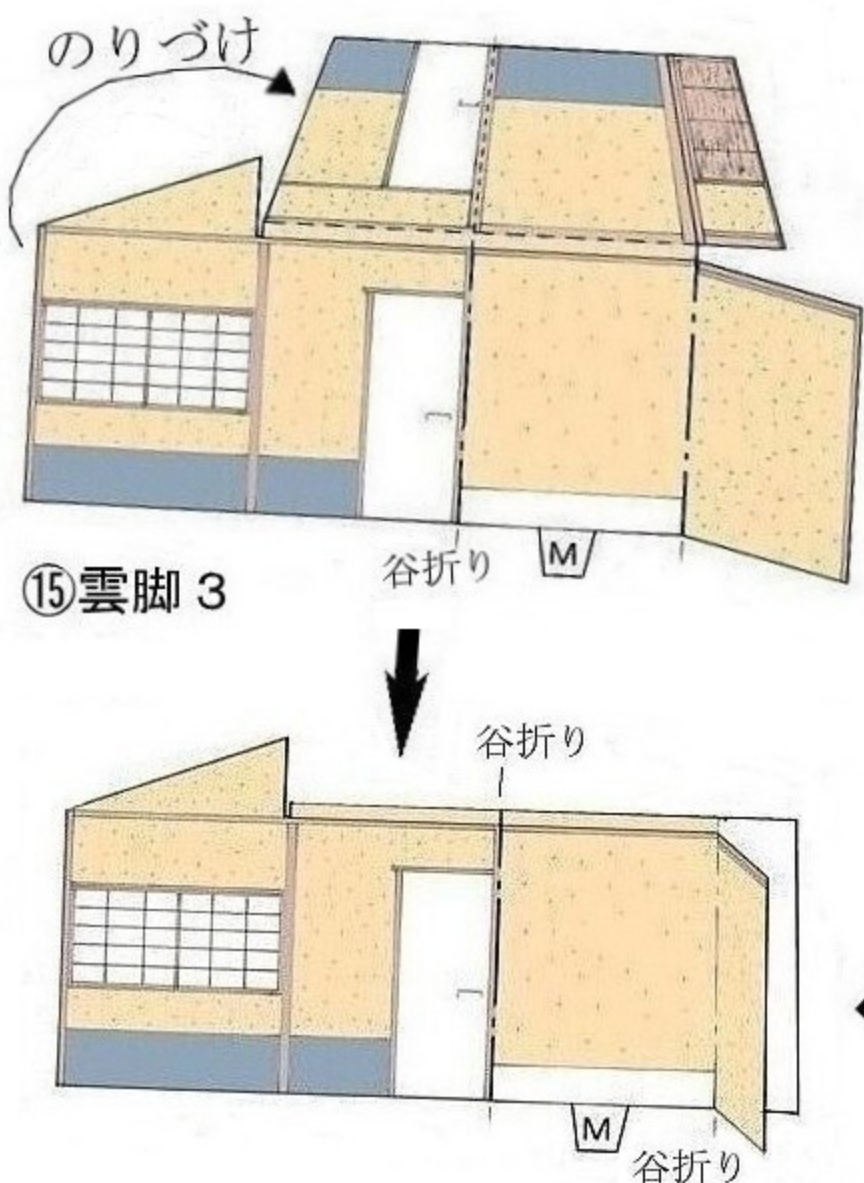
⑭を折りたたんでのりづけし、山折り、谷折りする。



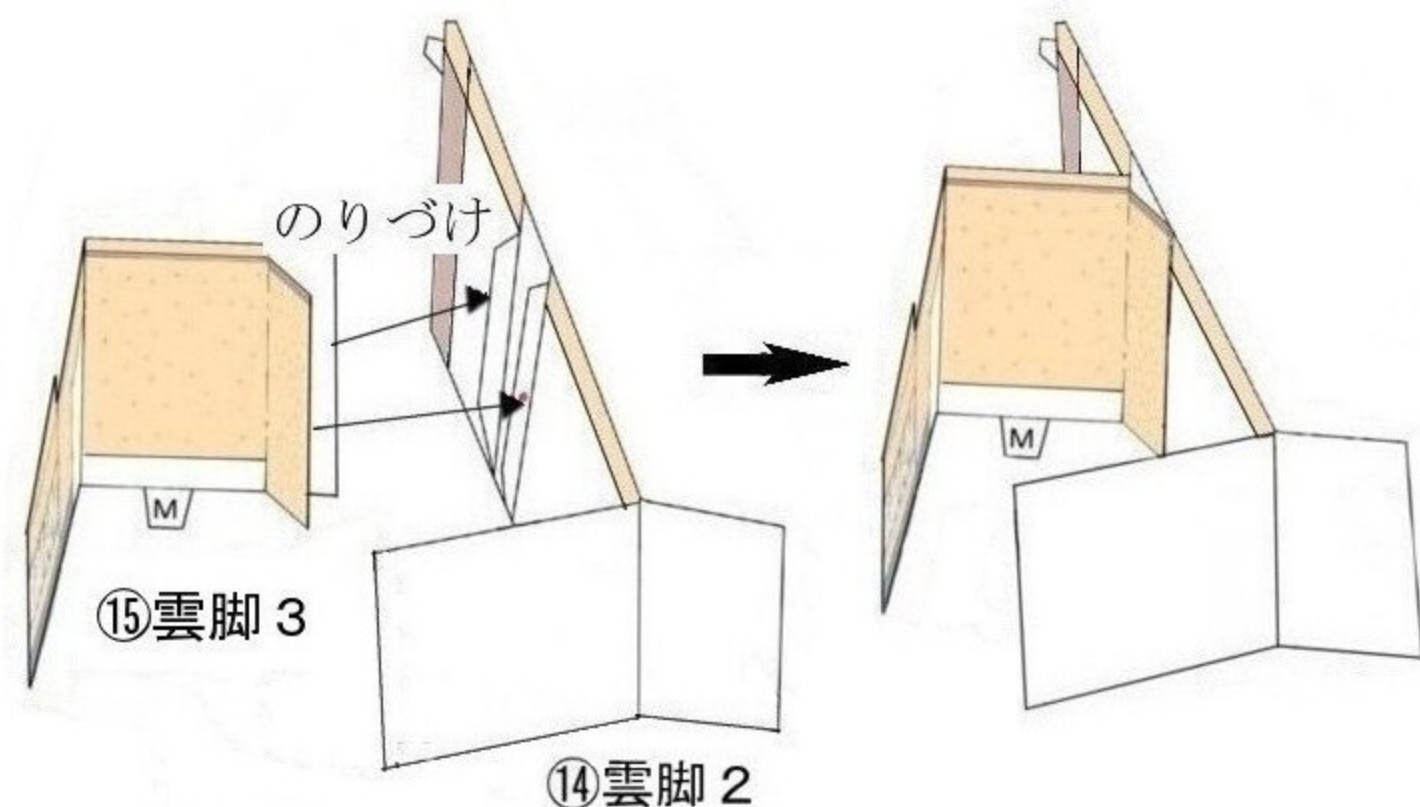
⑪を折りたたんでのりづけし、山折り、谷折りする。



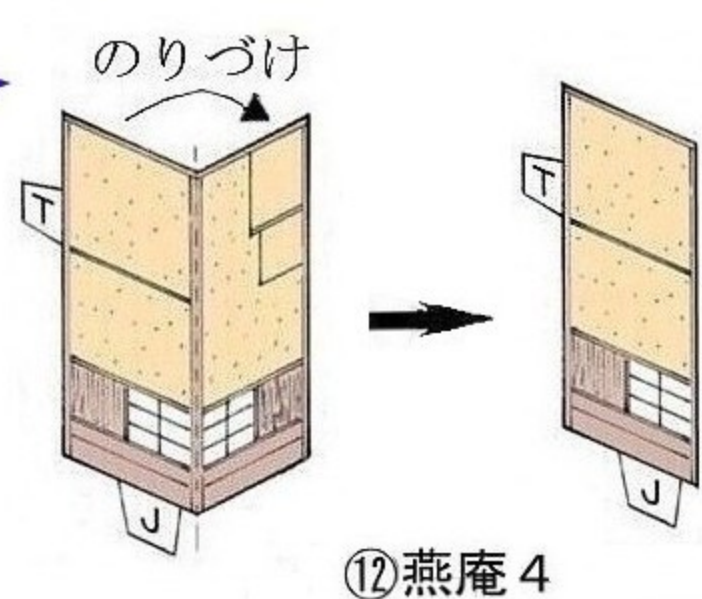
⑮を折りたたんでのりづけし、山折り、谷折りする。



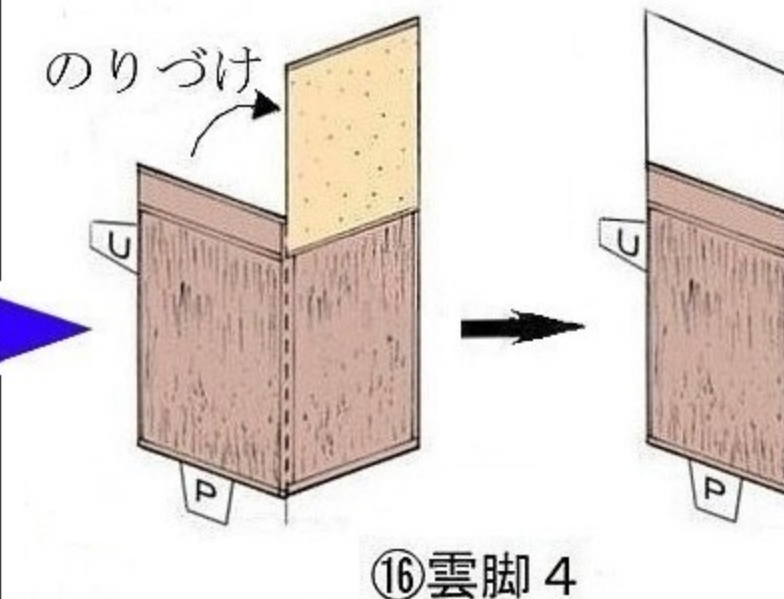
⑮を⑭にのりづけ



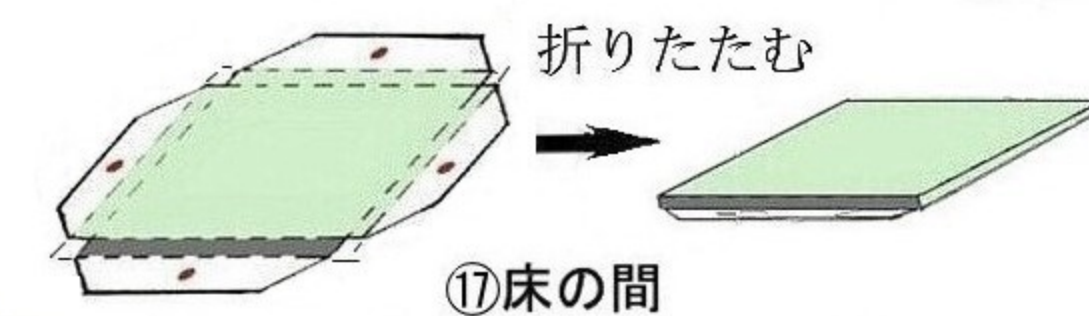
⑫を折りたたんでのりづけ



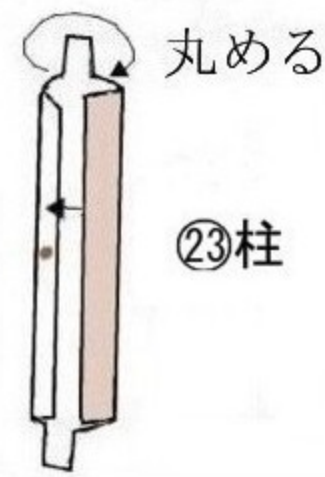
⑯を折りたたんでのりづけ



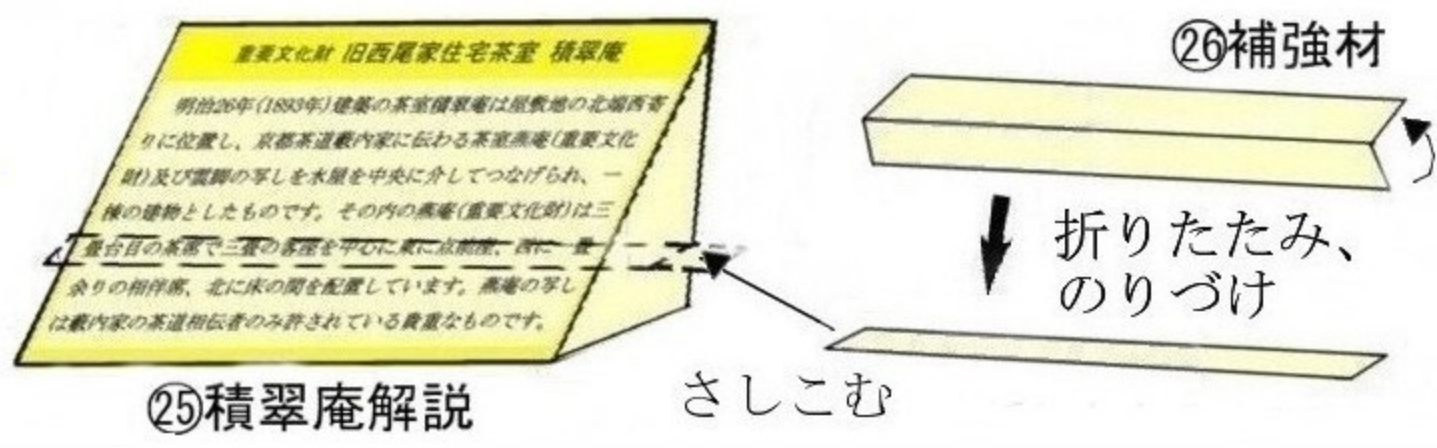
⑰を折りたたむ。



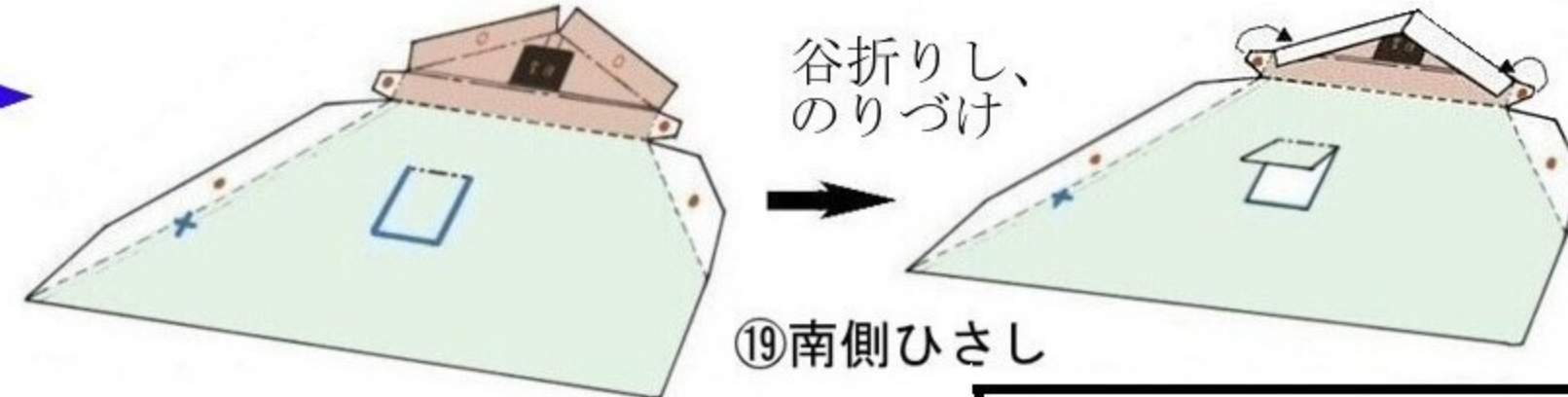
②③を丸めてのりづけ



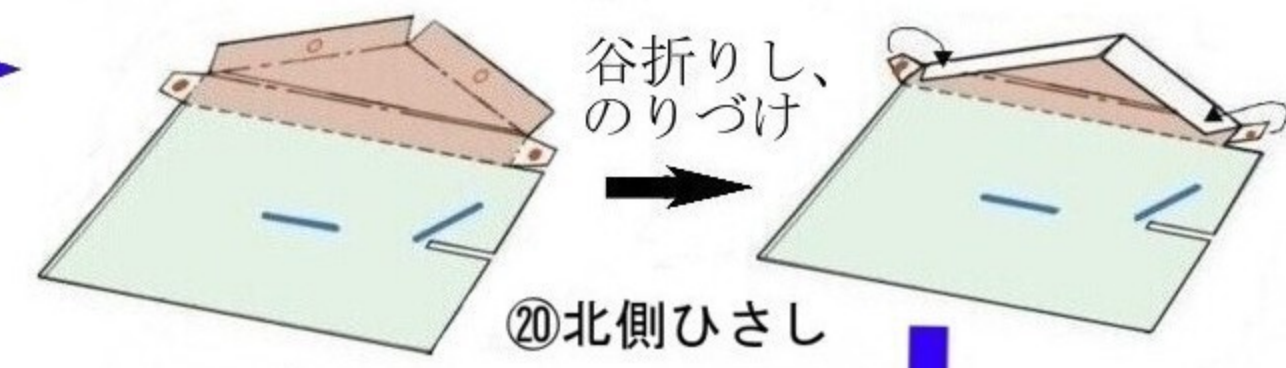
②⑥を折りたたんでのりづけし、②⑤にさしこむ。



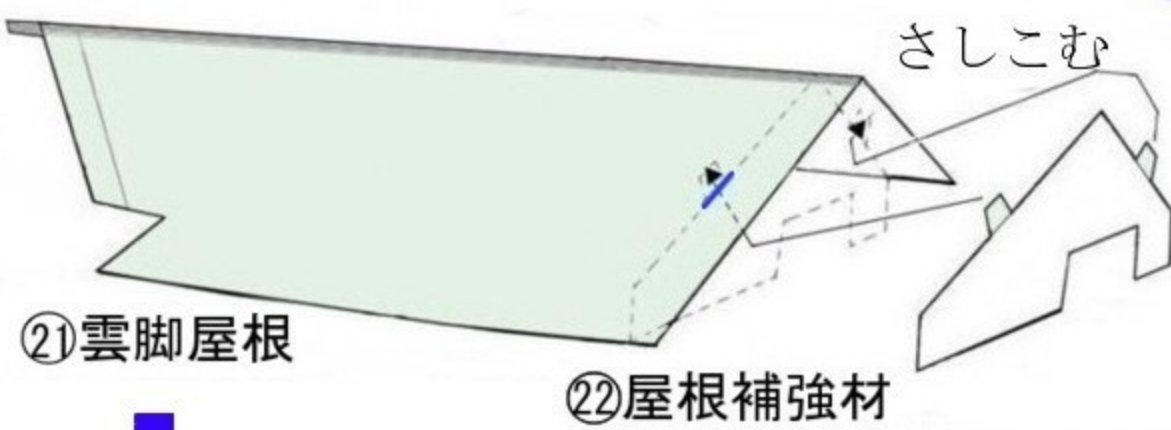
①⑨の上端を谷折りし、のりづけ



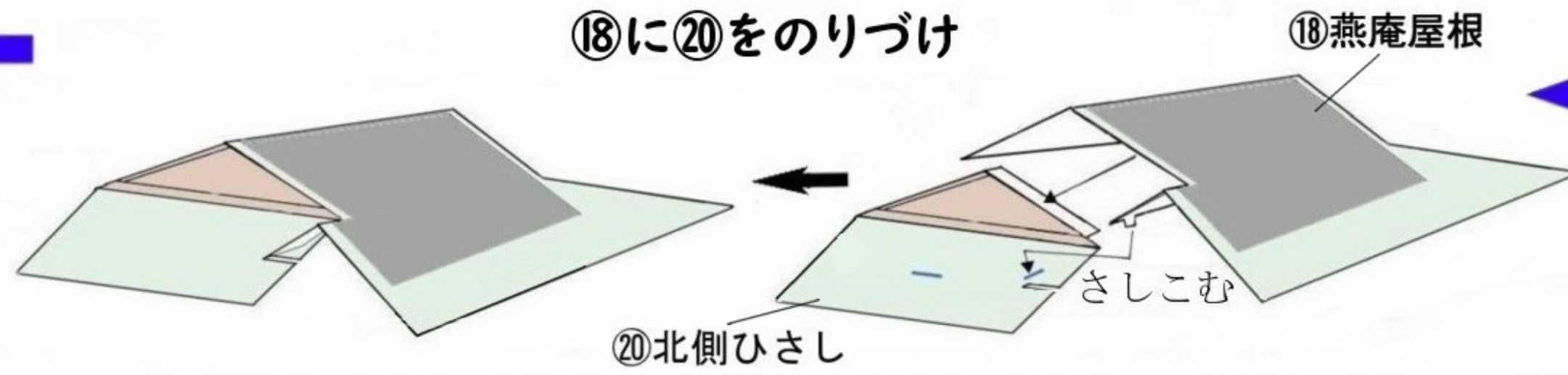
②⑦の上端を谷折りし、のりづけ <6>



②①に②②をさしこむ

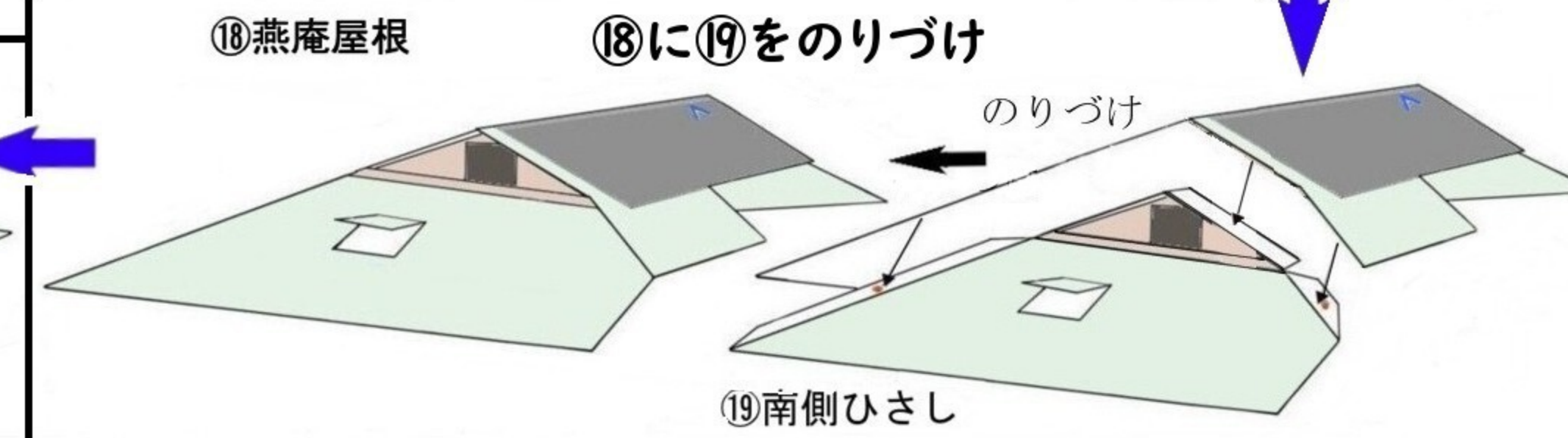


①⑧に②⑦をのりづけ



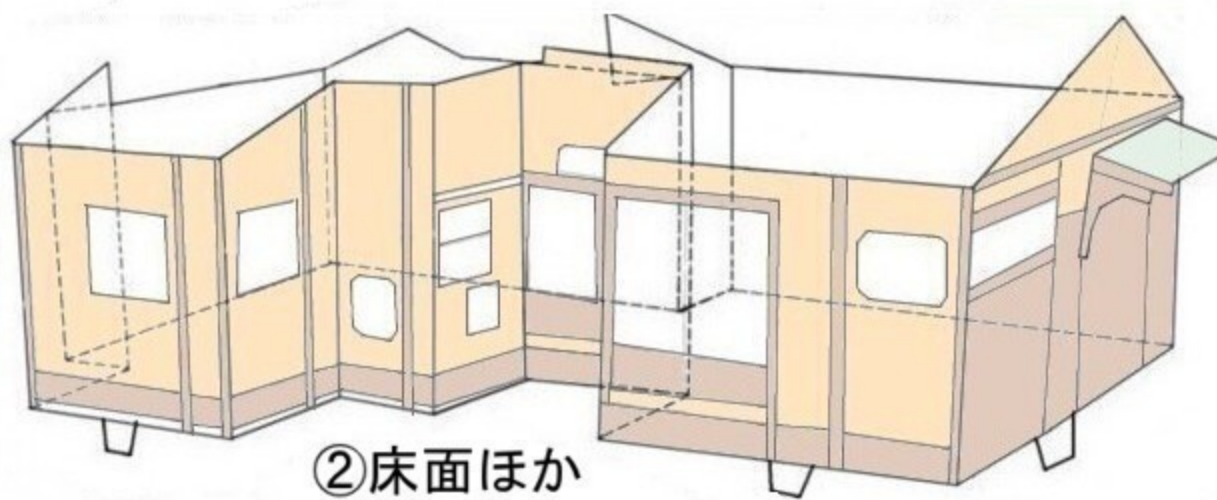
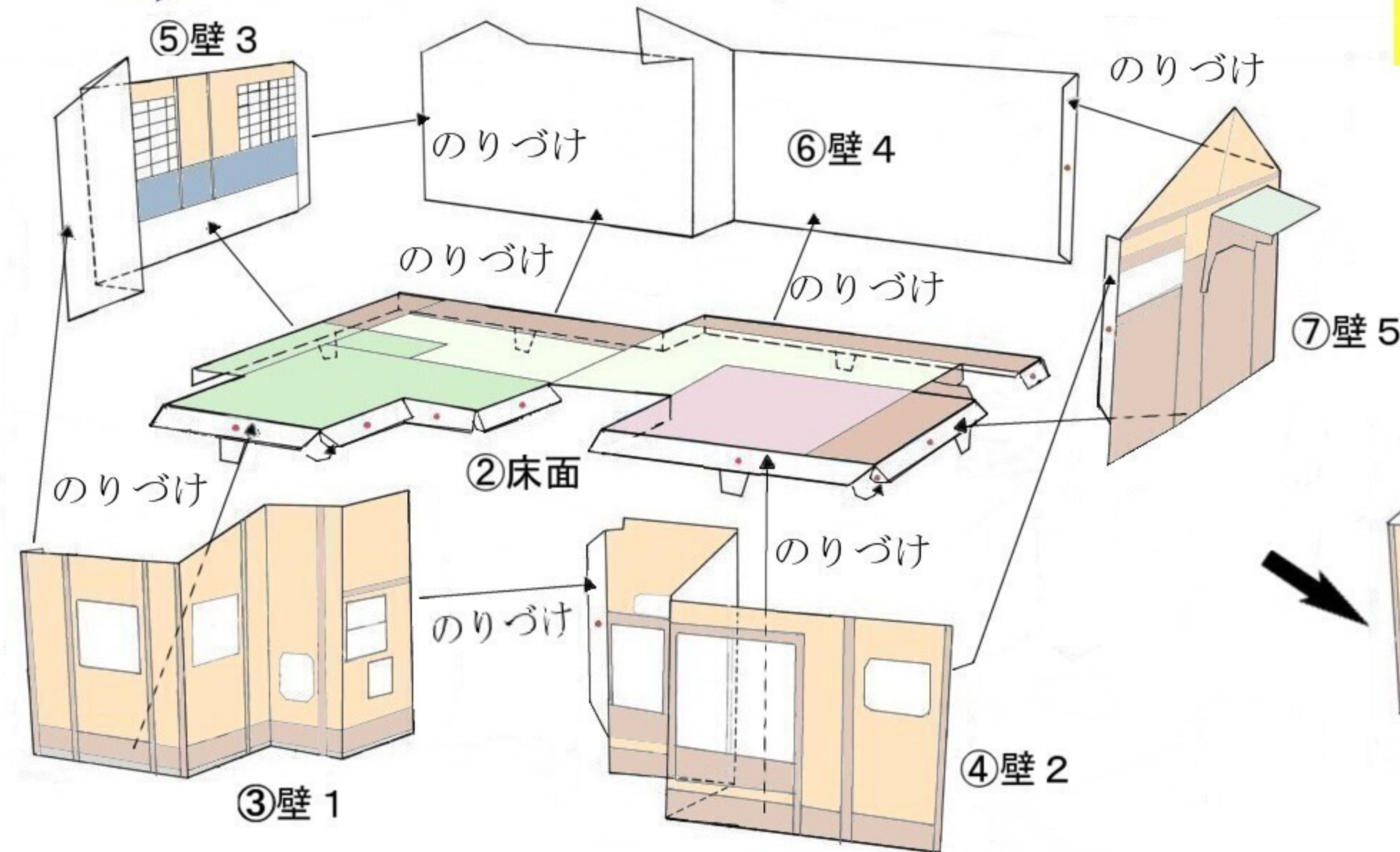
①⑧燕庵屋根

①⑧に①⑨をのりづけ

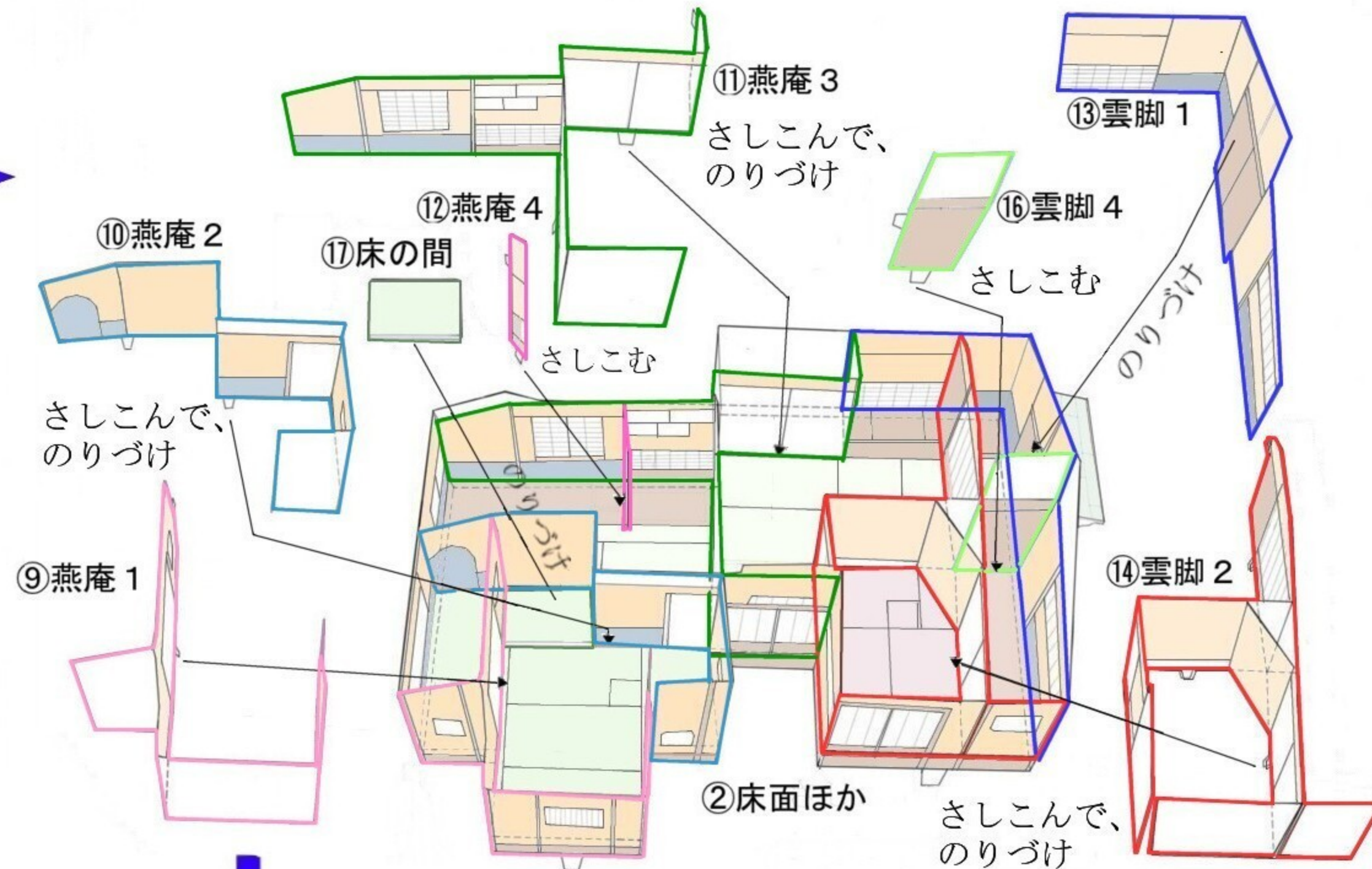


## 2 部品を組み立てる

②床面のコーナーをのりづけし、組み立てる。  
②に③④⑤⑥⑦の下端をのりづけ

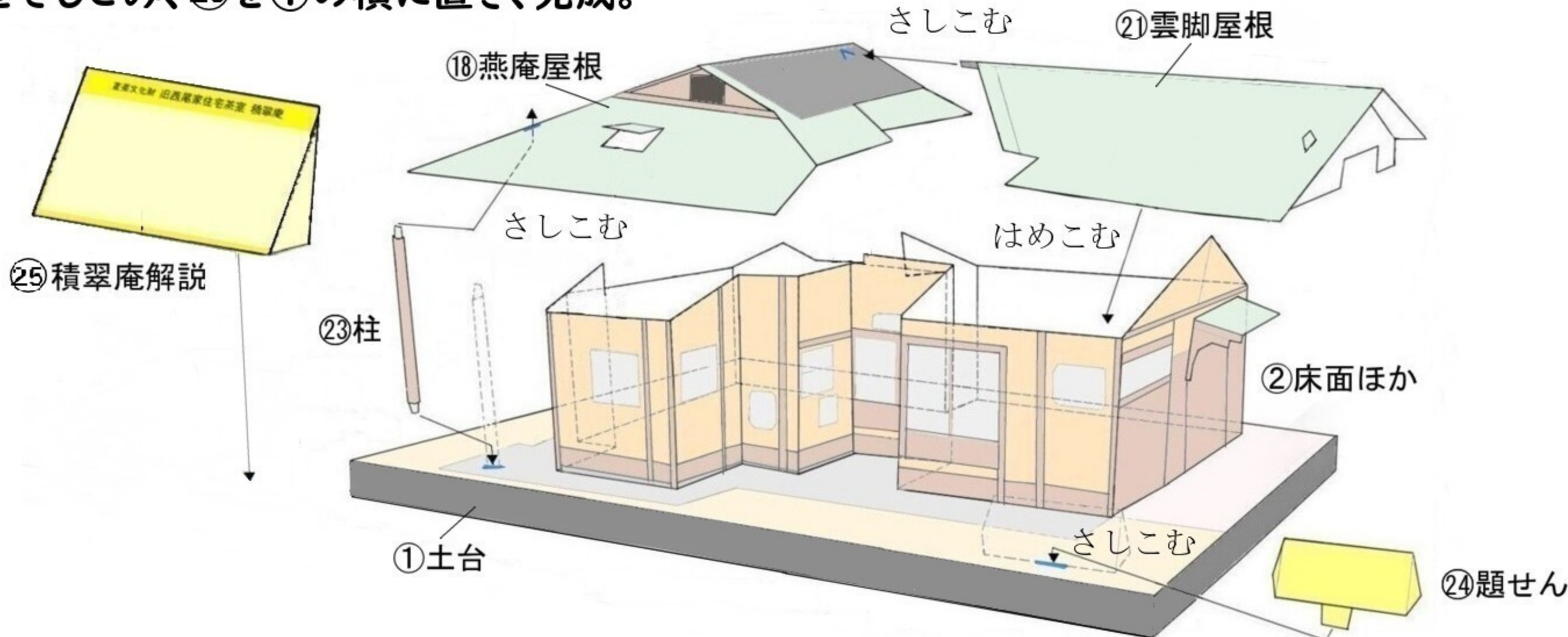


②床面ほかの内面に⑨⑩⑪⑫⑭アルファベット文字を合わせてさしこんでのりづけ。⑬をのりづけし、⑫⑯をさしこむ。⑰をのりづけ

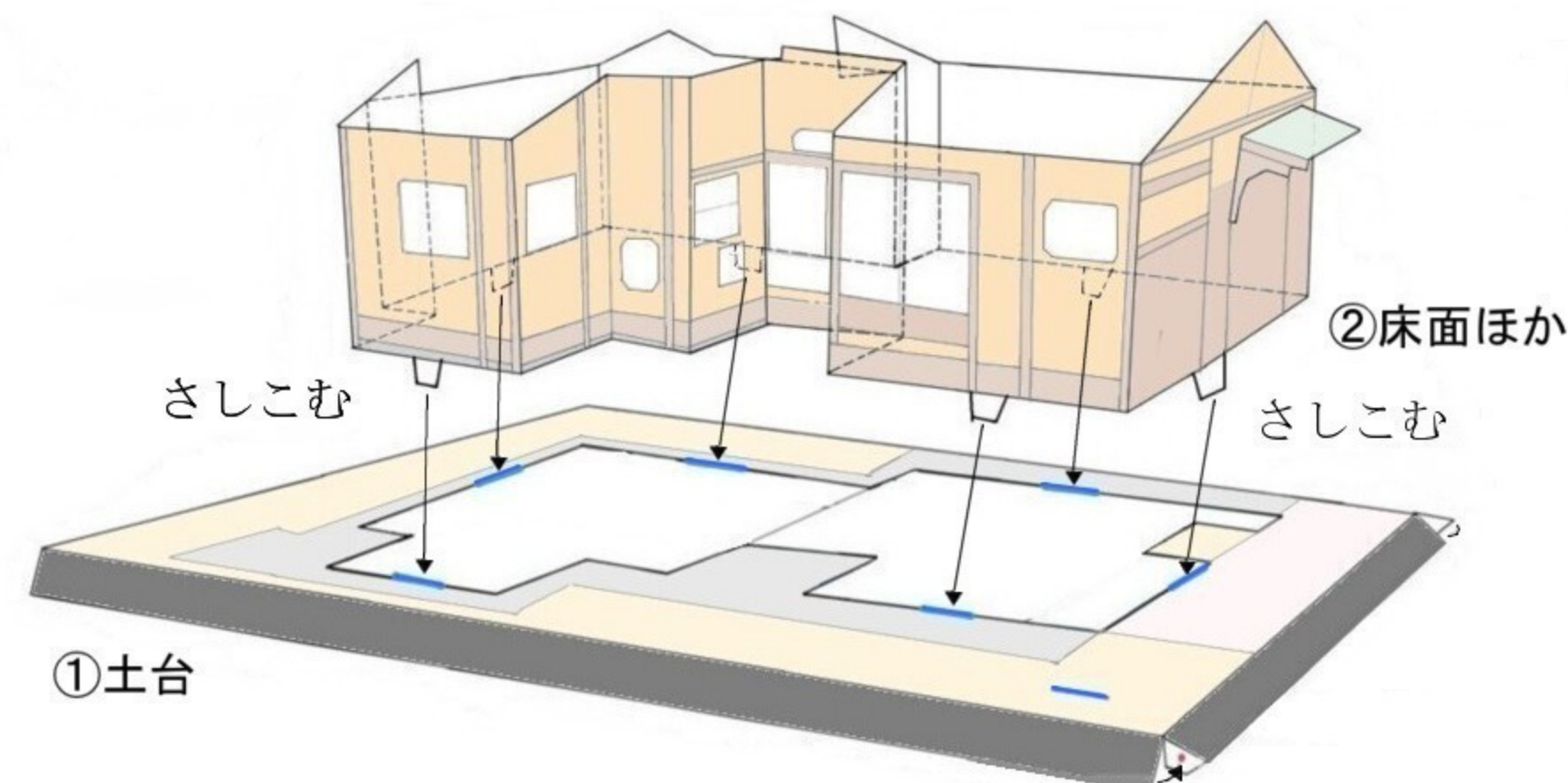


②③を①⑧にさしこみ、①⑧を②にはめこむ。②①を①⑧にさしこみ、②にはめこむ。

②④をさしこみ、②⑤を①の横に置き、完成。



①に②をアルファベット文字を合わせてさしこむ。



重要文化財 旧西尾家住宅茶室積翠庵

西尾家は近世末に仙洞御料の庄屋を務めていました。現存する住宅は明治26年(1893年)から大正年間にかけて建築され、主屋、茶室積翠庵、離れ西棟、離れ東棟、戌亥土蔵、戌亥角土蔵、米蔵等からなります。

明治26年建築の茶室積翠庵は屋敷地の北端西寄りに位置し、京都茶道藪内家に伝わる茶室燕庵(重要文化財)及び雲脚の写しを水屋をはさんでつなぎ、一棟の建物としたものです。その内の燕庵(重要文化財)は三畳台目の茶席で三畳の客座を中心に東に点前座、西に一畳余りの相伴席、北に床の間を配置しています。雲脚は二畳台目の茶席で点前

座の東に三角形の板を入れて床の代わりにしています。

藪内家の代表的な茶室燕庵の写しは相伝者のみ許されており、その燕庵の写しを含んだ積翠庵は優れた茶室で、貴重なものです。

- \*仙洞御料……上皇の領地のこと。
- \*水屋……茶室に隣接し、茶道具や水を用意する施設。
- \*手前座……茶席で亭主が茶を点てるための席。
- \*相伴席……茶席で正客とともにもてなしを受ける人の席。
- \*台目……茶室の畳で普通の畳の約4分の3の大きさのもの。
- \*相伝者……茶道を代々受け継いで伝える人。



茶室積翠庵近景(南から)



燕庵内部近景(西から)